

## 基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	学部の学科の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホクゾン ニシヨウガクシヤ 学校法人 二松學舎								
フリガナ大学の名称	ニシヨウガクシヤダガク 二松學舎大学 (Nishogakusha University)								
大学本部の位置	東京都千代田区三番町6-16								
大学の目的	本大学は、東洋の精神による人格の陶冶を旨とし、学校教育法に基づき、広く一般の基礎教養に関する学術と、更に深く専門の学芸を教授研究し、知的・道徳的及び応用的能力を展開させるとともに、世界文化の進展に寄与し、国家社会に貢献する国際性豊かな有為の人物を養成することを使命とする。								
新設学部等の目的	文芸文化における表現コンテンツに関する調査・分析をもとにした創造的企画力の高い能力を持った人材、および都市と地域の伝統・文化を理解し、その文化的受容性や新たな概念としての整理創造を通して、社会をどのように豊かにしていくのかについて課題整理・解決に向けての行動ができる人材を養成する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	文学部(Faculty of Literature) 都市文化デザイン学科 (Urban Culture Design) 計	年	人	年次人	人	学士(文学)	年月 第年次 平成29年4月 第1年次	東京都千代田区三番町6-16	
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)		文学部 中国文学科[定員減](△50)(平成29年4月)							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	文学部都市文化デザイン学科	講義	演習	実験・実習	計	124単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
	新設分	文学部 都市文化デザイン学科	教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等
		計	3 (2)	1 (1)	2 (3)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	91 (91)
	既設分	文学部 国文学科	16 (19)	2 (2)	0 (1)	0 (0)	18 (22)	0 (0)	134 (134)
		文学部 中国文学科	7 (8)	1 (2)	0 (0)	0 (0)	8 (10)	0 (0)	130 (130)
		計	23 (27)	3 (4)	0 (1)	0 (0)	26 (32)	0 (0)	- (-)
合計		26 (29)	4 (5)	2 (4)	0 (0)	32 (38)	0 (0)	- (-)	
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計		
	事務職員		76人 (76人)		3人 (3人)		79人 (79人)		
	技術職員		0人 (0人)		0人 (0人)		0人 (0人)		
	図書館専門職員		2人 (2人)		19人 (19人)		21人 (21人)		
	その他の職員		0人 (0人)		0人 (0人)		0人 (0人)		
計		79人 (79人)		21人 (21人)		100人 (100人)			

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	(共用)附属高校、 附属柏中・高校				
	校 舎 敷 地	3,376.53㎡	18,145㎡	0㎡	21,521.53㎡	(設置基準面積)				
	運 動 場 用 地	0㎡	105,313㎡	0㎡	105,313㎡	24,000㎡				
	小 計	3,376.53㎡	123,458㎡	0㎡	126,834.53㎡	(借用面積・期間)				
	そ の 他	0㎡	0㎡	0㎡	0㎡	2,733㎡、2年間				
合 計	3,376.53㎡	123,458㎡	0㎡	126,834.53㎡						
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		40,779.4㎡ (40,779.4㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	40,779.4㎡ (40,779.4㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	63室	20室	9室	5室 (補助職員 0人)	2室 (補助職員 0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		文学部 都市文化デザイン学科		6 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共用分 ・図書 [345,348] ・学術雑誌 [6,966] ・電子ジャーナル [1,782] ・データベース [6] ・電子書籍 [418] ・視聴覚資料 [8,849]		
	都市文化デザイン学科	1,103 [84] (271 [20])	6 [0] ( 6 [0])	0 [0] ( 0 [0])	50 ( 10)	0 (0)	0 (0)			
	計	1,103 [84] (271 [20])	6 [0] ( 6 [0])	0 [0] ( 0 [0])	50 ( 10)	0 (0)	0 (0)			
図 書 館		面 積		閱 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数		大学全体			
		2,833.11㎡		498席	292,778冊					
体 育 館		面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要				大学全体		
		2,231.03㎡								
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次	図 書 購 入 費 に は 電 子 書 籍 購 入 費 を 含 む
		教員 1 人 当 り 研 究 費 等		450千円	450千円	450千円	450千円	－ 千円	－ 千円	
		共 同 研 究 費 等		1,600千円	1,600千円	1,600千円	1,600千円	－ 千円	－ 千円	
		図 書 購 入 費	3,000千円	3,500千円	3,500千円	3,500千円	3,500千円	－ 千円	－ 千円	
		設 備 購 入 費	2,000千円	2,000千円	2,000千円	2,000千円	2,000千円	－ 千円	－ 千円	
	学 生 1 人 当 り 納 付 金	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次			
		1,276 千円	996 千円	996 千円	996 千円	－ 千円	－ 千円			
学 生 納 付 金 以 外 の 維 持 方 法 の 概 要			私 立 大 学 等 経 常 費 補 助 金 、 資 産 運 用 収 入 、 雑 収 入 等							

既設大学等の状況	大学の名称	二松学舎大学							所在地
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	
	文学部	年	人	年次人	人		倍		
	国文学科	4	260	—	1040	学士（文学）	1.22	昭和24年度	東京都千代田区三番町6-16
	中国文学科	4	140	—	560	学士（文学）	1.17	昭和24年度	
	国際政治経済学部								
	国際政治経済学科	4	200	—	800	学士（国際政治経済学）	1.12	平成3年度	千葉県柏市大井2590
	大学院文学研究科								
	博士前期課程国文学専攻	2	16	—	32	修士（文学）	0.44	昭和41年度	東京都千代田区三番町6-16
	博士前期課程中国学専攻	2	16	—	32	修士（文学）	0.29	昭和41年度	
	大学院文学研究科								
	博士後期課程国文学専攻	3	5	—	15	博士（文学）	0.44	昭和41年度	東京都千代田区三番町6-16
	博士後期課程中国学専攻	3	5	—	15	博士（文学）	0.53	昭和61年度	
	大学院国際政治経済学研究科								
	国際政治経済学専攻修士課程	2	10	—	20	修士（国際政治経済学）	0.22	平成13年度	東京都千代田区三番町6-16
附属施設の概要	該当なし								

学校法人二松學舎 設置認可に関わる組織の移行表

平成28年度

平成29年度

	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
二松學舎大学				二松學舎大学				
文学部				文学部				
国文学科	260	-	1,040	国文学科	260	-	1,040	
中国文学科	140	-	560	中国文学科	<u>90</u>	-	<u>360</u>	定員変更(△50)
				都市文化デザイン学	<u>50</u>		<u>200</u>	学科の設置(届出)
国際政治経済学部				国際政治経済学部				
国際政治経済学科	200	-	800	国際政治経済学科	200	-	800	
計	600		2,400	計	600		2,400	

教育課程等の概要																
(文学部都市文化デザイン学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
文学部 共通科目	基礎ゼミナール	1通	2					○								
	文学入門A	1前	2				○			1	1				兼13 <small>オムニバス</small>	
	文学入門B	1後	2				○								兼15 <small>オムニバス</small>	
	漢学と文章表現A	1前	2				○								兼3	
	漢学と文章表現B	1後	2				○								兼3	
	人文学とビジネスデザイン	2前・後		2			○								兼1	
	人文学と教育	2前・後		2			○								兼1	
	人文学とコミュニケーション	2前・後		2			○			1						
	小計(8科目)	—		10	6	0		—		1	1	3	0	0	兼33	—
学科 共通科目	都市文化デザイン学入門	1前	2				○			1						
	異文化コミュニケーション入門	1前	2				○				1					
	ポピュラーカルチャー入門	1後	2				○			1						
	メディア学概論	1前	2				○				1					
	記号学概論	1後	2				○				1					
	観光社会学概論	1前	2				○			1						
	クリエイティブ概論	1後	2				○								兼1	
	アートビジネス概論	1前	2				○								兼1	
	現代日本文化概論A	1前		2			○					1				
	現代日本文化概論B	1後		2			○					1				
	地域社会文化概論A	1前		2			○					1				
	地域社会文化概論B	1後		2			○					1				
	英語で学ぶフランス語	1・2前		2			○					1				
	英語で学ぶ中国語	1・2後		2			○					1				
小計(14科目)	—		16	12	0		—		1	1	3			兼2	—	
専攻 科目	地域ブランディング論	2前	2				○								兼1	
	建築デザイン論	2後		2			○			1						
	編集デザイン論	2前		2			○								兼1	
	映像表現文化論	2前		2			○					1				
	広告表現文化論	2後		2			○								兼1	
	放送・マスコミ文化論	2前		2			○								兼1	
	環境文学論	2休		2				○							兼1	集中
	都市文化文献講読	2後		2				○		1						
	ブランディング・リテラシー演習	3前		2				○							兼1	
	エディティング・リテラシー演習	3後		2				○							兼1	
	パフォーマンス・リテラシー演習	3前		2				○							兼1	
	都市文化デザイン学研究	3前	2					○		1						
	コミュニケーションデザイン研究	3後	2					○			1					
	ゲーム表現文化研究	3前		2				○			1					
	マンガ表現文化研究	3後		2				○		1						
	アニメ表現文化研究	3後		2				○				1				
	多文化共生論特殊研究	3休		2				○							兼1	集中
	都市文学特殊研究	3前		2				○		1						
	江戸東京文化特殊研究	3後		2				○				1				
	消費文化産業特殊研究	3前		2				○							兼1	
東アジア都市文化フィールドワーク①	3・4休		2				○		1	1					集中	
東アジア都市文化フィールドワーク②	3・4休		2				○				1				集中	

	欧米都市文化フィールドワーク①	3・4 休	2		○						兼 1	集中
	欧米都市文化フィールドワーク②	3・4 休	2		○			1			兼	集中
	小計 (24科目)	—	6	42	0	—	2	1	3		兼 4	
総合科目	日本国憲法	1・2前・後	2		○						兼 1	
	基礎政治学A	1・2 前	2		○						兼 1	
	基礎経済学A	1・2 前	2		○						兼 1	
	民俗学A	1・2 前	2		○						兼 1	
	民俗学B	1・2 後	2		○						兼 1	
	哲学・倫理学A	1・2 前	2		○						兼 1	
	哲学・倫理学B	1・2 後	2		○						兼 1	
	ボランティア論	1・2 前	2		○						兼 1	
	学校ボランティア論	1・2 前	2		○						兼 1	
	キャリア教育①	1 後	1		○						兼 1	
	キャリア教育②	2 前	1		○						兼 1	
	キャリア教育③	2 後	1		○						兼 1	
	キャリア教育④	3 前	1		○						兼 1	
	インターンシップ論	1・2 前	2		○						兼 1	
	ジェンダー論A	1・2 前	2		○						兼 1	
	美術史A	1・2 前	2		○						兼 1	
	美術史B	1・2 後	2		○						兼 1	
	基礎漢文A	1・2 前	2		○						兼 1	
	宇宙科学A	1・2 前	2		○						兼 1	
	宇宙科学B	1・2 後	2		○						兼 1	
	生命哲学A	1・2 前	2		○						兼 1	
	生命哲学B	1・2 後	2		○						兼 1	
	基礎数学A	1・2 前	2		○						兼 1	
	基礎数学B	1・2 後	2		○						兼 1	
	情報科学①A	1・2 前	2		○						兼 1	
	情報科学①B	1・2 後	2		○						兼 1	
	情報科学②A	1・2 前	2		○						兼 1	
	情報科学②B	1・2 後	2		○						兼 1	
	マスメディア論A	1・2 後	2		○						兼 1	
	情報処理①	1・2 前	2		○						兼 4	
	情報処理②	1・2 後	2		○						兼 4	
	情報処理アドヴァンス①	1・2 前	2		○						兼 2	
	情報処理アドヴァンス②	1・2 後	2		○						兼 2	
	地球環境論A	1・2 前	2		○						兼 1	
	地球環境論B	1・2 後	2		○						兼 1	
	総合英語Ⅰ (コミュニケーション)	1・2 通	2		○						兼 2	
	総合英語Ⅱ (TOEIC)	1・2 通	2		○						兼 2	
	総合英語Ⅲ (映画)	1・2 通	2		○						兼 1	
	総合英語Ⅳ (日常生活)	1・2 通	2		○						兼 1	
	総合英語Ⅴ (海外旅行)	1・2 通	2		○						兼 1	
総合英語Ⅵ (ビジネス)	1・2 通	2		○						兼 2		
総合英語Ⅶ (メディア)	1・2 通	2		○						兼 2		
総合英語Ⅷ (アカデミック)	1・2 通	2		○						兼 1		
総合英語 (文)	1・2 通	2		○						兼 4		
ドイツ語①	1・2 通	2		○						兼 1		
ドイツ語②	1・2 通	2		○						兼 1		
ドイツ語③	1・2 通	2		○						兼 1		
フランス語①	1・2 通	2		○						兼 1		
フランス語②	1・2 通	2		○						兼 1		
フランス語③	1・2 通	2		○						兼 1		
ロシア語①	1・2 通	2		○						兼 1		
ロシア語②	1・2 通	2		○						兼 1		
ロシア語③	1・2 通	2		○						兼 1		
中国語①	1・2 通	2		○				1		兼	5	

	中国語②	1・2 通	2		○								兼 2
	韓国語①	1・2 通	2		○								兼 2
	韓国語②	1・2 通	2		○								兼 1
	韓国語③	1・2 通	2		○								兼 1
	日本語①A	1・2 前	1		○								兼 1
	日本語①B	1・2 後	1		○								兼 1
	日本語②中級A	1・2 前	1		○								兼 1
	日本語②中級B	1・2 後	1		○								兼 1
	日本語②上級A	1・2 前	1		○								兼 1
	日本語②上級B	1・2 後	1		○								兼 1
	日本語③中級A	1・2 前	1		○								兼 1
	日本語③中級B	1・2 後	1		○								兼 1
	日本語③上級ⅠA	1・2 前	1		○								兼 1
	日本語③上級ⅠB	1・2 後	1		○								兼 1
	日本語③上級ⅢA	1・2 前	1		○								兼 1
	日本語③上級ⅢB	1・2 後	1		○								兼 1
	日本語④A	1・2 前	1		○								兼 1
	日本語④B	1・2 後	1		○								兼 1
	短期海外研修①	1・2 休	2			○			1				集中
	短期海外研修②	1・2 休	2			○							集中
	健康スポーツ科学A	1・2 前	2		○								兼 1
	健康スポーツ科学B	1・2 後	2		○								兼 1
	健康スポーツ①	1・2 通	2				○						兼 1
	健康スポーツ②	1・2 通	2				○						兼 1
	シーズンスポーツ①	1・2 前	2				○						兼 1
	シーズンスポーツ②	1・2 後	2				○						兼 1
	小計 (80科目)	—	0	142	0	—		0	0	1	0	0	兼 50
自由 選 択 科 目	日本文学講読①A	3 前	2		○								兼 1
	日本文学講読①B	3 後	2		○								兼 1
	日本文学講読④A	3 前	2		○								兼 1
	日本文学講読④B	3 後	2		○								兼 1
	日本文学講読⑤A	3 前	2		○								兼 1
	日本文学講読⑤B	3 後	2		○								兼 1
	日本文学講読⑦A	3 前	2		○								兼 1
	日本文学講読⑦B	3 後	2		○								兼 1
	日本文学講読⑨A	3 前	2		○								兼 1
	日本文学講読⑨B	3 後	2		○								兼 1
	日本文学講読⑩A	3 前	2		○								兼 1
	日本文学講読⑩B	3 後	2		○								兼 1
	日本文学講読⑪A	3 前	2		○								兼 1
	日本文学講読⑪B	3 後	2		○								兼 1
	比較文化講義A	3・4 前	2		○								兼 1
	比較文化講義B	3・4 後	2		○								兼 1
	小計 (16科目)	—	0	32	0	—		0	0	0	0	0	兼 8
ナ ゼ ミ ナ ル	ゼミナールⅠ	3 通	4			○		2	1	3			
	ゼミナールⅡ	4 通	4			○		2	1	3			
	小計 (2科目)	—	8	0	0	—		2	1	3	0	0	—
研 卒 業	卒業研究	4 通	6			○		2	1	3			
	小計 (1科目)	—	6	0	0	—		2	1	3	0	0	—
合計 (145科目)		—	46	234	0	—		2	1	3	0	0	兼 91
学位又は称号		学士 (文学)		学位又は学科の分野			文学関係						
卒業要件及び履修方法							授業期間等						
文学部履修規程に基づき、文学部共通科目14単位、学科共通科目24単位、総合科目12単位、専攻科目32単位、自由選択科目28単位、ゼミナール8単位、卒業研究6単位、計124単位以上を履修しなければならない。 (履修科目の登録の上限：40単位 (年間))							1 学年の学期区分			2期			
							1 学期の授業期間			15週			

(注)

- 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同し学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

教 育 課 程 等 の 概 要

(文学部都市文化デザイン学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
文学部 共通科目	基礎ゼミナール	1 通	2					○			1	2				
	文学入門A	1 前	2			○				1	1				兼 13	オムニバス
	文学入門B	1 後	2			○									兼 15	オムニバス
	漢学と文章表現A	1 前	2			○									兼 3	
	漢学と文章表現B	1 後	2			○									兼 3	
	人文学とビジネスデザイン	2前・後		2		○									兼 1	
	人文学と教育	2前・後		2		○									兼 1	
	人文学とコミュニケーション	2前・後		2		○				1						
	小計 (8科目)	—		10	6	0			—	1	1	3	0	0	兼 33	—
学科 共通科目	都市文化デザイン学入門	1 前	2			○			1							
	異文化コミュニケーション入門	1 前	2			○					1					
	ポピュラーカルチャー入門	1 後	2			○			1							
	メディア学概論	1 前	2			○				1						
	記号学概論	1 後	2			○				1						
	観光社会学概論	1 前	2			○			1							
	クリエイティブ概論	1 後	2			○									兼 1	
	アートビジネス概論	1 前	2			○									兼 1	
	現代日本文化概論A	1 前		2		○						1				
	現代日本文化概論B	1 後		2		○						1				
	地域社会文化概論A	1 前		2		○						1				
	地域社会文化概論B	1 後		2		○						1				
	英語で学ぶフランス語	1・2 前		2		○						1				
	英語で学ぶ中国語	1・2 後		2		○						1				
小計 (14科目)	—		16	12	0			—	1	1	3	0	0	兼 2	—	
専攻 科目	地域ブランディング論	2 前	2			○									兼 1	
	建築デザイン論	2 後		2		○			1							
	編集デザイン論	2 前		2		○									兼 1	
	映像表現文化論	2 前		2		○						1				
	広告表現文化論	2 後		2		○									兼 1	
	放送・マスコミ文化論	2 前		2		○									兼 1	
	環境文学論	2 休		2		○									兼 1	集中
	都市文化文献講読	2 後		2		○			1							
	ブランディング・リテラシー演習	3 前		2				○							兼 1	
	エディティング・リテラシー演習	3 後		2				○							兼 1	
	パフォーミング・リテラシー演習	3 前		2				○							兼 1	
	都市文化デザイン学研究	3 前	2			○			1							
	コミュニケーションデザイン研究	3 後	2			○				1						
	ゲーム表現文化研究	3 前		2		○				1						
	マンガ表現文化研究	3 後		2		○			1							
	アニメ表現文化研究	3 後		2		○					1					
	多文化共生論特殊研究	3 休		2		○									兼 1	集中
	都市文学特殊研究	3 前		2		○			1							
	江戸東京文化特殊研究	3 後		2		○					1					
	消費文化産業特殊研究	3 前		2		○									兼 1	
	東アジア都市文化フィールドワーク①	3・4 休		2				○		1	1					集中
東アジア都市文化フィールドワーク②	3・4 休		2				○				1				集中	

	欧米都市文化フィールドワーク①	3・4 休	2		○							兼 1	集中
	欧米都市文化フィールドワーク②	3・4 休	2		○				1			兼	集中
	小計 (24科目)	—	6	42	0	—	2	1	3	0	0	兼 4	
総合科目	日本国憲法	1・2前・後	2		○							兼 1	
	基礎政治学A	1・2 前	2		○							兼 1	
	基礎経済学A	1・2 前	2		○							兼 1	
	民俗学A	1・2 前	2		○							兼 1	
	民俗学B	1・2 後	2		○							兼 1	
	哲学・倫理学A	1・2 前	2		○							兼 1	
	哲学・倫理学B	1・2 後	2		○							兼 1	
	ボランティア論	1・2 前	2		○							兼 1	
	学校ボランティア論	1・2 前	2		○							兼 1	
	キャリア教育①	1 後	1		○							兼 1	
	キャリア教育②	2 前	1		○							兼 1	
	キャリア教育③	2 後	1		○							兼 1	
	キャリア教育④	3 前	1		○							兼 1	
	インターンシップ論	1・2 前	2		○							兼 1	
	ジェンダー論A	1・2 前	2		○							兼 1	
	美術史A	1・2 前	2		○							兼 1	
	美術史B	1・2 後	2		○							兼 1	
	基礎漢文A	1・2 前	2		○							兼 1	
	宇宙科学A	1・2 前	2		○							兼 1	
	宇宙科学B	1・2 後	2		○							兼 1	
	生命哲学A	1・2 前	2		○							兼 1	
	生命哲学B	1・2 後	2		○							兼 1	
	基礎数学A	1・2 前	2		○							兼 1	
	基礎数学B	1・2 後	2		○							兼 1	
	情報科学①A	1・2 前	2		○							兼 1	
	情報科学①B	1・2 後	2		○							兼 1	
	情報科学②A	1・2 前	2		○							兼 1	
	情報科学②B	1・2 後	2		○							兼 1	
	マスメディア論A	1・2 後	2		○							兼 1	
	情報処理①	1・2 前	2		○							兼 4	
	情報処理②	1・2 後	2		○							兼 4	
	情報処理アドヴァンス①	1・2 前	2		○							兼 2	
	情報処理アドヴァンス②	1・2 後	2		○							兼 2	
	地球環境論A	1・2 前	2		○							兼 1	
	地球環境論B	1・2 後	2		○							兼 1	
	総合英語Ⅰ (コミュニケーション)	1・2 通	2		○							兼 2	
	総合英語Ⅱ (TOEIC)	1・2 通	2		○							兼 2	
	総合英語Ⅲ (映画)	1・2 通	2		○							兼 1	
	総合英語Ⅳ (日常生活)	1・2 通	2		○							兼 1	
	総合英語Ⅴ (海外旅行)	1・2 通	2		○							兼 1	
総合英語Ⅵ (ビジネス)	1・2 通	2		○							兼 2		
総合英語Ⅶ (メディア)	1・2 通	2		○							兼 2		
総合英語Ⅷ (アカデミック)	1・2 通	2		○							兼 1		
総合英語 (文)	1・2 通	2		○							兼 4		
ドイツ語①	1・2 通	2		○							兼 1		
ドイツ語②	1・2 通	2		○							兼 1		
ドイツ語③	1・2 通	2		○							兼 1		
フランス語①	1・2 通	2		○							兼 1		
フランス語②	1・2 通	2		○							兼 1		
フランス語③	1・2 通	2		○							兼 1		
ロシア語①	1・2 通	2		○							兼 1		
ロシア語②	1・2 通	2		○							兼 1		
ロシア語③	1・2 通	2		○							兼 1		
中国語①	1・2 通	2		○					1		兼	5	

	中国語②	1・2 通	2		○								兼 2
	韓国語①	1・2 通	2		○								兼 2
	韓国語②	1・2 通	2		○								兼 1
	韓国語③	1・2 通	2		○								兼 1
	日本語①A	1・2 前	1		○								兼 1
	日本語①B	1・2 後	1		○								兼 1
	日本語②中級A	1・2 前	1		○								兼 1
	日本語②中級B	1・2 後	1		○								兼 1
	日本語②上級A	1・2 前	1		○								兼 1
	日本語②上級B	1・2 後	1		○								兼 1
	日本語③中級A	1・2 前	1		○								兼 1
	日本語③中級B	1・2 後	1		○								兼 1
	日本語③上級ⅠA	1・2 前	1		○								兼 1
	日本語③上級ⅠB	1・2 後	1		○								兼 1
	日本語③上級ⅢA	1・2 前	1		○								兼 1
	日本語③上級ⅢB	1・2 後	1		○								兼 1
	日本語④A	1・2 前	1		○								兼 1
	日本語④B	1・2 後	1		○								兼 1
	短期海外研修①	1・2 休	2			○			1				
	短期海外研修②	1・2 休	2			○							兼 1
	健康スポーツ科学A	1・2 前	2		○								兼 1
	シーズンスポーツ①	1・2 前	2				○						兼 1
	シーズンスポーツ②	1・2 後	2				○						兼 1
	小計 (77科目)	—	0	136	0	—		0	0	1	0	0	兼 49 —
自由 選 択 科 目	日本文学講読①A	3 前	2		○								兼 1
	日本文学講読①B	3 後	2		○								兼 1
	日本文学講読④A	3 前	2		○								兼 1
	日本文学講読④B	3 後	2		○								兼 1
	日本文学講読⑤A	3 前	2		○								兼 1
	日本文学講読⑤B	3 後	2		○								兼 1
	日本文学講読⑦A	3 前	2		○								兼 1
	日本文学講読⑦B	3 後	2		○								兼 1
	日本文学講読⑨A	3 前	2		○								兼 1
	日本文学講読⑨B	3 後	2		○								兼 1
	日本文学講読⑩A	3 前	2		○								兼 1
	日本文学講読⑩B	3 後	2		○								兼 1
	日本文学講読⑪A	3 前	2		○								兼 1
	日本文学講読⑪B	3 後	2		○								兼 1
	比較文化講義A	3・4 前	2		○								兼 1
	比較文化講義B	3・4 後	2		○								兼 1
	小計 (16科目)	—	0	32	0	—		0	0	0	0	0	兼 8 —
ナゼ ミ ル	ゼミナールⅠ	3 通	4			○		2	1	3			
	ゼミナールⅡ	4 通	4			○		2	1	3			
	小計 (2科目)	—	8	0	0	—		2	1	3	0	0	—
研 卒 究 業	卒業研究	4 通	6			○		2	1	3			
	小計 (1科目)	—	6	0	0	—		2	1	3	0	0	—
合計 (142科目)		—	46	228	0	—		2	1	3	0	0	兼 90
学位又は称号		学士 (文学)		学位又は学科の分野			文学関係						
卒業要件及び履修方法							授業期間等						
文学部履修規程に基づき、文学部共通科目14単位、学科共通科目24単位、総合科目12単位、専攻科目32単位、自由選択科目28単位、ゼミナール8単位、卒業研究6単位、計124単位以上を履修しなければならない。 (履修科目の登録の上限：40単位 (年間))							1 学年の学期区分			2期			
							1 学期の授業期間			15週			
							1 時限の授業時間			90分			

(注)

1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与す

る学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。

- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(文学部都市文化デザイン学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
科 共 学 目 通 科	都市文化デザイン学入門	1 後		2		○			1						
	小計 (1科目)	—	0	2	0		—		1	0	0	0	0		
総 合 科 目	健康スポーツ科学A	1・2 前		2		○									兼1
	健康スポーツ科学B	1・2 後		2		○									兼1
	健康スポーツ①	1・2 通		2				○							兼1
	健康スポーツ②	1・2 通		2				○							兼1
	小計 (4科目)	—	0	8	0		—		0	0	0	0	0	0	兼1
合計 (5科目)		—	0	10	0		—		1	0	0	0	0	0	兼1
学位又は称号		学士 (文学)		学位又は学科の分野				文学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
文学部履修規程に基づき、文学部共通科目14単位、学科共通科目24単位、総合科目12単位、専攻科目32単位、自由選択科目28単位、ゼミナール8単位、卒業研究6単位、計124単位以上を履修しなければならない。 (履修科目の登録の上限：40単位 (年間))								1 学年の学期区分			2期				
								1 学期の授業期間			15週				
								1 時限の授業時間			90分				

(注)

- 学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

授 業 科 目 の 概 要			
(文学部都市文化デザイン学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
文学部 共通科目	基礎ゼミナール	<p>【概要】 これから始まる4年間の大学生活を有意義に過ごすために必要なこと がらを学ぶ。学習方法のみならず、学習以外での場面での学生生活の あり方も学ぶ。なお、具体的には下記の授業計画にある項目を学ぶこ とになるが、各項目の順序や分量は各クラスごとに必要に応じて異な ることがある。</p> <p>【到達目標】 1 自ら選択した専攻に基いて、履修計画を立て、必要な授業科目を選 択できるようにする。2 大学での学習・クラブ・サークル活動・アル バイト等を含め、目標に従って時間を計画的に使えるようにする。</p>	
文学部 共通科目	文学入門A	<p>【概要】 二年次以降の専攻科目への移行をスムーズに行えるよう文学研究の基 本的な姿勢を身につけ、また二年次秋に予定されるゼミの選択を着実 に行えるようになること。</p> <p>【到達目標】 二松学舎大学文学部でどのような「学び」が出来るのかを理解する。 教員によっては入門書の紹介なども行うので、自らの「学び」の第一 歩を踏み出せるようになる。 (オムニバス形式/全15回)</p> <p>(3 松本 健太郎 1回) 記号論・メディア論・映像論 (4 張 佩茹 1回) 中国語学、中国語教育 (7 磯 水絵 1回) 院政・鎌倉期の説話文学と随筆 (8 五井 信 1回) 日本近代文学、文学理論、カルチュラル・スタ ディーズ (9 塩田 今日子 1回) 韓国語学、言語学 (10 島田 泰子 1回) 中世以降の語彙史・文法史 (11 瀧田 浩 1回) 日本近代文学、文化研究 (12 谷口 貢 1回) 民俗学、宗教民俗史 (13 林 謙太郎 1回) 日本語学 (14 原 由来恵 1回) 平安朝散文学、伝承論 (15 増田 裕美子 1回) 比較文学 (16 森野 崇 1回) 日本語文法史 (17 山口 直孝 1回) 近代日本語文芸 (18 山崎 正伸 1回) 平安朝文学(和歌・歌物語) (19 渡邊 了好 1回) 日韓対照言語学、日本語教育、比較文明論、 韓国論、日本文明論</p>	オムニバス形式
文学部 共通科目	文学入門B	<p>【概要】 二年次以降の専攻科目への移行をスムーズに行えるよう文学研究の基 本的な姿勢を身につけ、また二年次秋に予定されるゼミの選択を着実 に行えるようになること。</p> <p>【到達目標】 二松学舎大学文学部でどのような「学び」が出来るのかを理解する。 教員によっては入門書の紹介なども行うので、自らの「学び」の第一 歩を踏み出せるようになる。 (オムニバス形式/15回)</p> <p>(20 稲田 篤信 1回) 日本近世小説史研究、日本近世学芸史研究 (21 多田 一臣 1回) 日本古代文学・日本古代文化論 (22 高澤 浩一 1回) 中国書道史、書道実技 (23 田中 正樹 1回) 中国学(思想) (24 牧角 悦子 1回) 中国古典詩・中国中世文学論、関一多研究、 中国近代学術 (25 町 泉寿郎 1回) 日本漢文学(15～19世紀日本の学芸史—儒学と 医学を中心に) (26 野間 文史 1回) 中国古代中世思想史 (27 福島 一浩 1回) 日本書道史、書道実技(かな)、書写教育、古 筆研究 (28 小山 聡子 1回) 日本中世宗教史 (29 五月女 肇志 1回) 中世和歌文学 (30 中川 桂 1回) 日本芸能史(近世芸能興行史、寄席芸能史) (31 伊藤 晋太郎 1回) 三国志・中国古典通俗文学 (32 小方 伴子 1回) 中国語学(古典) (33 荒井 裕樹 1回) 日本近現代文学 障害者文化論 (34 戸内 俊介 1回) 中国語学、中国古文字学</p>	オムニバス形式

文学部 共通科目	漢学と文章表現A	<p>【概要】 明治期の漢学塾での役割のひとつであった文章表現の教授を歴史的に確認するとともに、近代日本の文章論や文章表現指導論を辿りながら、具体的な文章表現法を受講学生には学んでもらう。特に、文章表現の基本だけでなく、大学でのレポート作成のための文章表現の技法を身につけてもらいたい。文章表現方法の基本事項を歴史と現在を概観・紹介、さらに個々の文章の添削を通して、文章表現の技術を身につけてもらう。</p> <p>【到達目標】 文章表現方法の基本事項の理解、文章表現教育の歴史と現在の把握、個々の文章の添削を通して文章表現技術の向上、文学部学生としてのレポート作成の作法を身につけてもらう。</p>	
文学部 共通科目	漢学と文章表現B	<p>【概要】 明治期の漢学塾での役割のひとつであった文章表現の教授を歴史的に確認するとともに、近代日本の文章論や文章表現指導論を辿りながら、具体的な文章表現法を受講学生には学んでもらう。特に、文章表現の基本だけでなく、大学でのレポート作成のための文章表現の技法を身につけてもらいたい。文章表現方法の基本事項を歴史と現在を概観・紹介、さらに個々の文章の添削を通して、文章表現の技術を身につけてもらう。</p> <p>【到達目標】 文章表現方法の基本事項の理解、文章表現教育の歴史と現在の把握、個々の文章の添削を通して文章表現技術の向上、文学部学生としてのレポート作成の作法を身につけてもらう。</p>	
文学部 共通科目	人文学とビジネスデザイン	<p>【概要】 大学で学ぶ諸学問領域に加えて、積極的に社会で活動・活躍していくための、さまざまなビジネスに関する知識を身につけてほしいと願い、「人文学とビジネス」という講座を開きます。講師は、グローバルに活躍されている実務家の先生です。海外や日本でのビジネス活動のなかでの文学とビジネスに関する話を、自分が実社会で生きていくための知識やコミュニケーションツールとして活用する術を手に入れてください。</p> <p>【到達目標】 社会人として活動していくために大学で学びそして学生時代に身につけておかなければならない知識・スキルを文学的観点から身に付けること。</p>	
文学部 共通科目	人文学と教育	<p>【概要】 大学で学ぶ諸学問領域に加えて、積極的に社会あるいは教育の場で活動・活躍していくための、さまざまな企画力や指導力を身につけてほしいと願い、「人文学と教育」という講座を開きます。講師は、公立小学校教師や私立高校校長として活躍されている先生です。地方の私立高校の校長としての教育論と実践されている教員生活のなかでの文学的観点からの人材育成等に関する話から、自ら、あるいは周囲の成長を促す知識として手に入れてください。</p> <p>【到達目標】 社会人あるいは教師として生きていくために学生時代に必要かつ身につけておく必要のある知識やスキルは何かということを知ること。</p>	
文学部 共通科目	人文学とコミュニケーション	<p>【概要】 大学で学ぶ諸学問領域に加えて、積極的に社会で活動・活躍していくための、さまざまな表現力を身につけてほしいと願い、「人文学とコミュニケーション」という講座を開きます。講師は、宝塚歌劇団で活躍された元トップの先生たちです。宝塚歌劇団やその後の舞台生活のなかでの共感体験やそれを基にした目標設定、計画的修練等の有様から、自分が生きていくための知識を手に入れてください。</p> <p>【到達目標】 担当講師の舞台人生から生まれた、人と人の関わりや組織・集団での生活、そしてそこでの自己実現への努力など、さまざまな人生知を具体的な場面や経験的な話から、自分の生きる力として、学び組み立てる力を得る。</p>	
学科共通 科目	都市文化デザイン学入門	<p>【概要】 「都市」「文化」「デザイン」という鍵語について、それぞれの人文学、歴史文化論、観光社会学における基礎的な概念・理論を包括的に学習する。さらに都市に関する様々な言説と結びついた社会・芸術・文化研究の各種事例を紹介し、多様な論点を獲得する。そのような知識や理論を、身近な都市文化に対して具体的に応用することにより、現代都市社会がもつ人文科学的な諸課題を明らかにしていく。</p> <p>【到達目標】 都市文化に関する人文科学的な諸課題についての基本的な知識の習得と、都市文化のもつ課題とその解決のための文献調査・分析解読のスキル習得にある。</p>	

学科共通 科目	異文化コミュニケーション 入門	<p>【概要】 コミュニケーション学の基礎理論を踏まえたうえで、文化ごとに異なる言語、価値観、コミュニケーションスタイルを理解する。また日本人のコミュニケーション文化の特徴を理解したうえで、異文化を経験する際のカルチャーショックに対応する方法などについて学習する。</p> <p>【到達目標】 異なる言語、文化、価値観、コミュニケーションスタイルの意義を考えるプロセスをつうじて、国際人として必要とされる素養を涵養することにある。</p>	
学科共通 科目	ポピュラーカルチャー入門	<p>【概要】 「教養」や「学術」では範疇化できない大衆性を持った文化事象を対象として、その大衆消費のシステムを可視化していく。具体的には、近代以降の日本の大衆文化の歴史と、メディアと結びついた大衆文化の消費システムの構図と、現代のサブカルチャーの文化的現象について理解を深化させる。</p> <p>【到達目標】 大衆的な文化現象に関する歴史的な観点の習得、およびポストモダンの状況における文化的コンテンツの消費システムを理解することにある。</p>	
学科共通 科目	メディア学概論	<p>【概要】 コミュニケーションを媒介するメディアの作用を理解するために、メディア論における基礎的な理論をについて、口承、文字、活字、電子、デジタル、ソーシャルなど、多種多様なメディアムに関する事例をとりあげながら体系的に学習していく。</p> <p>【到達目標】 各種メディアムの歴史性と社会性を考慮にいれながら、その技術的な特性が人間や文化に及ぼしてきた影響を読み解くためのメディア・リテラシーを獲得することにある。</p>	
学科共通 科目	記号学概論	<p>【概要】 20世紀の初頭にフェルディナン・ド・ソシュールによって創始されたヨーロッパ系の記号学 (semiology) 、および同時期にチャールズ・サンダース・パースによって創始されたアメリカ系の記号論 (semiotics) を出発点として、現代的な「記号の学」を体系的に学習していくことになる。</p> <p>【到達目標】 記号学/記号論における基礎的な理論を把握したうえで、現代文化を読み解くためのセミオ・リテラシーを獲得することにある。</p>	
学科共通 科目	観光社会学概論	<p>【概要】 現代社会におけるイメージや価値の形成をめぐるメカニズムを理解するために、観光社会学における言説を体系的に学習する。都市文化やそのブランドイメージが「観光のまなざし」によってどのように再構成されていくのか、その過程を解明することで消費社会の実相に迫っていく。</p> <p>【到達目標】 観光とメディアとの現代的な関係性に着眼しながら、都市文化のそなえるメディア性を理解すること、さらには観光と視覚表象との関係性や力学について理解することにある。</p>	
学科共通 科目	クリエイティブ概論	<p>【概要】 ICTの発達、少子高齢化、グローバル化によってパラダイム転換を遂げつつある日本の都市文化をよりよく理解するために、新聞、雑誌広告、CMなどのマス広告や、イベント、キャンペーンなど、多種多様な職種のクリエイターが産出する各種表象、および、それをとりまく産業構造や消費社会について理解していく。</p> <p>【到達目標】 各種のコンテンツ、サービスなどを国内外に発信する人材の育成に向けて、その基礎的な知識を習得することにある。</p>	
学科共通 科目	アートビジネス概論	<p>【概要】 現代アートをめぐる社会的なコンテキストに着眼しながら、アートビジネスにおける商慣習や産業構造を学び、現代のデジタル環境下においてそれらがどのように変容しつつあるのかを理解していく。</p> <p>【到達目標】 美術館やアートセンターにおける展示等を題材として、日本の文化政策をめぐる各種の事例をとりあげ、現代アートの領野における価値創造のメカニズムを学習することにある。</p>	

学科共通科目	現代日本文化概論A	<p>【概要】 現代日本の文化システムの可視化を企図して、商業的な水準でジャンル化され、主題化された様々な文化現象を対象化する。具体的には、文化、思想、経済系の雑誌や番組などの各種表象を題材として、そこに含まれる文化的要素や物語的要素を分析の俎上に載せる。</p> <p>【到達目標】 現代日本の社会文化システムを理解するために、様々な表象あるいは作品をとりあげ、それを複数の学問的視座を踏まえて分析するための基礎的なスキルを獲得することにある。</p>	
学科共通科目	現代日本文化概論B	<p>【概要】 第二次世界大戦後の日本文化論を対象に、時代状況との関係のなかで、日本文化の論じられかた、主題化されかたを通時的に考察する。具体的には、文学、思想、歴史学系の日本文化論だけでなく、社会科学系の日本文化論も含めて、各種文化論を題材として、そこに含まれる可視化された日本の文化的要素を分析の俎上に載せる。</p> <p>【到達目標】 現代日本の社会文化システムを歴史的に理解すること、様々な日本文化論をとりあげ、それら複数の学問的視座を分析するための発展的なスキルとして獲得することにある。</p>	
学科共通科目	地域社会文化概論A	<p>【概要】 比較文化論的な視座に立脚しながら、社会的ネットワーク分析、言語・空間・場所論などにおける複数のアプローチをとりあげ、国内外における都会と地方の関係性において生起する人々の生活・文化・共同体を理解するための基礎的なアプローチを学習していく。</p> <p>【到達目標】 グローバル社会における地域の変容を比較文化論的な観点から読み解くための基礎的な力を獲得することにある。</p>	
学科共通科目	地域社会文化概論B	<p>【概要】 地域社会論として、日本各地の地域ブランド化の事例を取り上げながら、その事例を材料にした、言語論・空間論・場所論などにおける複数のアプローチを試みる。さらに、首都圏と地方の関係性において生起する人々の生活・文化・共同体を理解するための応用的なアプローチを学習していく。</p> <p>【到達目標】 グローバル社会における地域の変容を文化論的な観点から読み解くための応用的な力を獲得することにある。</p>	
学科共通科目	英語で学ぶフランス語	<p>【概要】 グローバル社会に対応しうる人材を育成するために、分かりやすい英語をもちいてフランス語の基礎を、さらには言語をつうじてフランス社会の諸相を学習していくことになる。</p> <p>【到達目標】 基礎的な英語をもちいてフランス語を学習することによって、日常会話レベルのフランス語の運用能力を養成するだけでなく、グローバル社会に対応しうるマルチリンガルの育成を目指す。</p>	
学科共通科目	英語で学ぶ中国語	<p>【概要】 グローバル社会に対応しうる人材を育成するために、分かりやすい英語をもちいて中国語の基礎を、さらには言語をつうじて中国社会の諸相を学習していくことになる。</p> <p>【到達目標】 基礎的な英語をもちいて中国語を学習することによって、日常会話レベルの中国語の運用能力を養成するだけでなく、グローバル社会に対応しうるマルチリンガルの育成を目指す。</p>	
専攻科目	地域ブランディング論	<p>【概要】 ブランド論という経営学的観点、景観形成という都市工学的観点、ブランド政策という行政学的観点を踏まえながら、経済のグローバル化に対応して再構築されていく地域イメージの構築・発信について、それを豊富な実践例とともに学習していく。</p> <p>【到達目標】 ある特定の地域のリソースを調査したうえで、地域ブランディングに向けた事業計画を企画・立案するための基礎的な知識を習得することにある。</p>	

専攻科目	建築デザイン論	<p>【概要】 人間の行動と環境との相互作用を視野にいれながら、それを科学的に把握するための方法論を紹介する。さらに建築の歴史を紐解きながら、現代人にとって望ましい建築空間をデザインするために必要とされる基本的な考え方について、豊富な事例とともに学習していく。</p> <p>【到達目標】 人間の行動や認知といった側面からみた建築空間・都市空間のデザインについて、その基礎的な考え方を学習することにある。</p>	
専攻科目	編集デザイン論	<p>【概要】 紙の書籍と電子の書籍が共存する現況を勘案しながら、書物とそのデザインの歴史について概観したうえで、知的生産物を書物というかたちでデザインする編集者の仕事について、さらにはその文化的役割について理解していく。</p> <p>【到達目標】 出版文化の歴史的変容のプロセスをとりあげながら、ルネッサンス期以降に登場した「作者」概念や、その権利を保護する制度である「著作権」概念、さらには「表現の自由」といった考え方について理解を深化させることにある。</p>	
専攻科目	映像表現文化論	<p>【概要】 映像記号論や視覚文化論などの理論的視点に立脚しながら、写真、映画、テレビ、デジタルイメージといった表現の諸形態をとりあげ、ポストグーテンベルク期における映像表象、およびそれらの集積によって形成される現代文化の組成を理解していくことにある。</p> <p>【到達目標】 映像表現をめぐる理論や歴史を把握することにより、現代人が接触するデジタル映像環境の文化的意義を理解することにある。</p>	
専攻科目	広告表現文化論	<p>【概要】 広告研究やマーケティング研究などの視座に立脚しながら、さらには広告をめぐるコミュニケーションの歴史を紐解きながら、広告表現の諸形態（新聞広告、TVCM、インターネット広告）、およびそれらの集積によって形成される現代文化の組成を理解していくことにある。</p> <p>【到達目標】 広告表現をめぐる歴史や学説を把握することにより、技術＝文化的環境のなかで変遷してきたそれと人間の行動との密接な関係性を理解することにある。</p>	
専攻科目	放送・マスコミ文化論	<p>【概要】 メディア論や効果研究など複数の学問的な視点から、マスコミュニケーションの作用や歴史を学習していく。さらに新聞、ラジオ、テレビなど個々のメディアの歴史を通観したうえで、その現代文化における役割を可視化する。</p> <p>【到達目標】 新聞、ラジオ、テレビなどのマスコミュニケーション媒体の作用を理解することによって、現代文化を読み解くために必要なメディア・リテラシーを獲得することにある。</p>	
専攻科目	環境文学論	<p>【概要】 人間と環境との現代的な関係性を理解するための視点として、環境文学とそれについての学説史について研究していく。とくに1970年代以降の環境問題に対する関心の高まりを踏まえたうえで、「ネイチャー・ライティング」や「エコクリティシズム」の多様な事例を学ぶことになる。</p> <p>【到達目標】 文学作品をつうじて表象される自然環境、あるいは環境問題に目を向けることによって、現代における望ましい都市環境をデザインするための視点を獲得する。</p>	集中
専攻科目	都市文化文献講読	<p>【概要】 文学や歴史学など多種多様な学問領域の文献を講読し、それについての議論を深化させることによって、現代日本の都市文化を分析するための視点を学習していく。</p> <p>【到達目標】 現代の都市文化を考察するうえで有用な様々な領域の文献に触れることで、その組成を分析するための能力を獲得することにある。</p>	

専攻科目	ブランディング・リテラシー演習	<p>【概要】 受け手に対してある特定の文化的コンテンツを訴求し、そのイメージの固定化を図るための方法論として、コミュニケーション手法やブランド構築について、より具体的にはコンセプト設定やターゲティング等の方法論について実践的に学習していく。</p> <p>【到達目標】 ブランディングのための各種手法を実践的に学ぶことにより、現代の消費社会におけるブランディングのあり方を読み解くためのリテラシーを獲得することにある。</p>	
専攻科目	エディティング・リテラシー演習	<p>【概要】 紙媒体／電子媒体という形態で書籍を製作していく実践的なプロセスをつうじて、知的生産物を書物というかたちでデザインする編集者の仕事について、さらにはその文化的役割について理解していく。</p> <p>【到達目標】 書籍の製作プロセスに実践的に関与することにより、編集者の仕事について、さらにはその文化的役割について理解することにある。</p>	
専攻科目	パフォーマンス・リテラシー演習	<p>【概要】 現代の多メディア社会に認められるメディアミックスが示唆するように、ある物語がメディアを乗り換えて伝達される各種の事例を視野にいれながら、映画、ドラマ、体感型イベントなどに含まれる身体表現の諸形態を実践的に学習していく。</p> <p>【到達目標】 身体メディア性、あるいは、身体表現に随伴する言語的／非言語的コミュニケーションの技法を体験的に習得することにより、身体表現をめぐるリテラシーを獲得することにある。</p>	
専攻科目	都市文化デザイン学研究	<p>【概要】 「都市」「文化」「デザイン」という鍵語について、それぞれの人文学、歴史文化論、観光社会学における発展的な概念・理論を包括的に学習する。さらに都市に関する様々な言説と結びついた社会・芸術・文化研究の各種事例を紹介し、多様な論点を獲得する。そのような知識や理論を、身近な都市文化に対して具体的に应用することにより、現代都市社会がもつ人文学的な諸課題を明らかにしていく。</p> <p>【到達目標】 都市文化に関する人文学的な諸課題についての発展的な知識の習得と、都市文化のもつ課題とその解決のための文献調査・分析解読のスキル習得にある。</p>	
専攻科目	コミュニケーションデザイン研究	<p>【概要】 インダストリアルデザイン、グラフィックデザイン、建築デザインなど、複数の領域におけるデザイン史（とくに産業革命以降のそれ）の展開に目を向けながら、人類のコミュニケーションがデザインされていく歴史的なプロセスについて通観していく。</p> <p>【到達目標】 コミュニケーションデザインの歴史を学習することにより、それが現代の都市文化の形成に及ぼした影響について理解していくことにある。</p>	
専攻科目	ゲーム表現文化研究	<p>【概要】 ビデオゲームの歴史、およびビデオゲーム研究における学説史を踏まえたうえで、具体的なゲーム作品や、あるいはゲームを題材とするアート作品をとりあげながら、「ゲーミフィケーション」概念が示唆するようにゲーム的なるものが多大な影響を及ぼしつつある現代文化の組成を理解する。</p> <p>【到達目標】 人々とゲーム文化との関係性を把握することにより、現代文化を読み解くためのリテラシーを獲得することにある。</p>	
専攻科目	マンガ表現文化研究	<p>【概要】 マンガ表象の歴史、およびマンガ研究における学説史を踏まえたうえで、具体的な作品や、あるいはその社会的な位置づけをめぐる言説をとりあげながら、日本を代表する文化的ソフトとも位置づけられつつあるマンガの文化的な意義を学習していく。</p> <p>【到達目標】 人々とマンガ文化との関係性を把握することにより、現代文化を読み解くためのリテラシーを獲得することにある。</p>	

専攻科目	アニメ表現文化研究	<p>【概要】 日本のアニメーションの歴史を概観することにより、日本のアニメ文化の特質について学習することにある。また、現代日本におけるアニメーションの商業性と、そのメディアビジネスにおける展開を踏まえながら、アニメ表現の推移と領域的な可能性を明らかにし、その表現文化としての位置づけを試みる。</p> <p>【到達目標】 映像表現史におけるアニメーションに対する理解、日本のアニメ文化に対する理解、さらにアニメーション表現の可能性を習得することにある。</p>	
専攻科目	多文化共生論特殊研究	<p>【概要】 現代の都市文化を構成する様々な立場の視点——例えば外国籍市民、障害者、女性、LGBT、子供といった人々のそれ——をとりあげながら、彼/彼女たちの抱える問題、諸権利、政策などについて多角的に学習していく。</p> <p>【到達目標】 マイノリティの立場に置かれた人々の問題、権利、政策などを理解するプロセスをつうじて、現代文化を多角的にまなぐ視野を涵養することにある。</p>	集中
専攻科目	都市文学特殊研究	<p>【概要】 明治近代以降の東京を舞台にした小説をとりあげるることにより、テキスト分析と時代考証とを重ねながら、そこに表象された時間と空間の組成について考察する。とくに樋口一葉、夏目漱石、森鷗外、島崎藤村、有島武郎、志賀直哉、芥川龍之介、永井荷風、川端康成、太宰治、吉行淳之介らの小説における空間表象から、都市文化が産出する物語の主題性を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 近代小説のテキスト分析理論の理解と時代考証の方法についての理解、さらに時間と空間の表象に関する物語論的な分析手法を獲得することにある。</p>	
専攻科目	江戸東京文化特殊研究	<p>【概要】 17世紀から21世紀までの江戸東京をひとつの地域として捉え、そこでの都市形成の歴史と文化を視野にいれながら、都市の文化的な力学とそこで生まれた文化的コンテンツを通時的に学習する。具体的には住居、食文化、商業、コミュニティ、ファッション、娯楽、教育、冠婚葬祭、旅、交通、メディアを鍵語として400年の文化誌を読み解く。</p> <p>【到達目標】 日本の首都である東京の都市イメージを歴史的な視野のなかで把握し、その文化を読み解くためのリテラシーの獲得を目指す。</p>	
専攻科目	消費文化産業特殊研究	<p>【概要】 文化的なコンテンツの消費に着眼して、それを可能にする社会構造についてマスコミ研究や文化産業論などの観点から理解を深める。とくにある特定の社会制度のなかで、人々の嗜好や価値観、さらには消費行動やトライバルチャーが形成されていくメカニズムを学んでいく。</p> <p>【到達目標】 ある特定のコンテンツ（物語や番組など）がメディアを介して社会的に流通していくうえで、その背景にある産業構造や社会システムのあり方を理解することにある。</p>	
専攻科目	東アジア都市文化フィールドワーク①	<p>【概要】 アキバラボ（サテライトキャンパス）を拠点とし、特定の都市をフィールドとしながら、その歴史・文化に関する文献調査に依拠して、学生がテーマをみずから設定し、実地でのフィールドワークを遂行し、報告書を作成する（担当教員との相談を経て、アキバラボ（サテライトキャンパス）での千代田・日本を含む東アジア各地の観光都市、チャイナタウンなどから調査対象地域を選定する）。</p> <p>【到達目標】 文献調査の方法の習得、自らテーマを設定する課題発見・課題解決力の養成、さらには現地でのフィールドワークによる多彩な学びの体験にある。</p>	集中
専攻科目	東アジア都市文化フィールドワーク②	<p>【概要】 アキバラボ（サテライトキャンパス）を拠点とし、特定の都市をフィールドとしながら、その歴史・文化に関する文献調査に依拠して、学生がテーマをみずから設定し、実地でのフィールドワークを遂行し、報告書を作成する（担当教員との相談を経て、沖縄や北海道などの遠隔地から調査対象地域を選定する）。</p> <p>【到達目標】 文献調査の方法の習得、自らテーマを設定する課題発見・課題解決力の養成、さらには現地でのフィールドワークによる多彩な学びの体験にある。</p>	集中

専攻科目	欧米都市文化フィールドワーク①	<p>【概要】</p> <p>アキバラボ（サテライトキャンパス）を拠点とし、特定の都市をフィールドとしながら、その歴史・文化に関する文献調査に依拠して、学生がテーマをみずから設定し、実地でのフィールドワークを遂行し、報告書を作成する（担当教員との相談を経て、アメリカ・ヨーロッパを中心とした欧米圏の都市から調査対象地域を選定する）。</p> <p>【到達目標】</p> <p>文献調査の方法の習得、自らテーマを設定する課題発見・課題解決力の養成、さらには現地でのフィールドワークによる多彩な学びの体験にある。</p>	集中
専攻科目	欧米都市文化フィールドワーク②	<p>【概要】</p> <p>アキバラボ（サテライトキャンパス）を拠点とし、特定の都市をフィールドとしながら、その歴史・文化に関する文献調査に依拠して、学生がテーマをみずから設定し、実地でのフィールドワークを遂行し、報告書を作成する（担当教員との相談を経て、オセアニアの都市から調査対象地域を選定する）。</p> <p>【到達目標】</p> <p>文献調査の方法の習得、自らテーマを設定する課題発見・課題解決力の養成、さらには現地でのフィールドワークによる多彩な学びの体験にある。</p>	集中
総合科目	日本国憲法	<p>【概要】</p> <p>日本国憲法は日本国の基本法であり、日本国並びに日本国民が準拠すべき最も重要な法である。日本国憲法の概要について検討をおこない、日本社会の抱える具体的問題、国際社会における日本の在り方について、憲法学的視点からの分析をおこなう。まず、日本国憲法の理解について不可欠な基礎的知識の修得を目指す。具体的には、憲法の基礎概念、日本国憲法の成り立ち、日本国憲法上の基本的人権保障の態様、そのための統治機構の制度について、理論、学説、判例等を通じて、学生諸君の理解を進める。</p> <p>【到達目標】</p> <p>日本国憲法をめぐる生ずる具体的な問題について、学生諸君が憲法学的視点から理解し、自分自身の見解を確立、主張することのできる能力の育成を目指す。</p>	
総合科目	基礎政治学A	<p>【概要】</p> <p>政治学への導入として、特に自由民主政治の思想、歴史、制度について基礎的な知識を身に付け、理解を深めることを目指します。それを通して政治学の基本的な概念や考え方を習得することが第1の目的です。また、これらの概念や考え方を応用し、政治の現状について理解、分析できるようになることがもうひとつの目的となります。</p> <p>【到達目標】</p> <p>受講者が現代政治・社会情勢やその問題に関心を持ち、日々のニュース報道をはじめとする政治・社会にまつわる情報について一定程度客観的に理解、分析し、社会の一員として主体的にそれらの問題について考えられるようになることを到達目標とします。</p>	
総合科目	基礎政治学B	<p>【概要】</p> <p>「基礎政治学A」で論じた自由民主政治の思想、歴史、制度への理解を前提とし、さらにその民主政治の作動についての理解を深めるとともに、より实际的に現代の民主政治が直面する問題を考えます。その目的から、前半では現代日本政治を参照しつつ国内の政治過程について考察し、後半部では現代国際政治の変容とそれがもたらす国家や民主政への影響を概観します。それによって民主政治の現状と今後につき一定程度の基礎知識を身に付け、広い視野から現代政治について考えるための土台を養います。</p> <p>【到達目標】</p> <p>初めに現代日本政治の特質と課題について基礎的な知識を得ること、次に国際政治の歴史と変容、国際政治から国内政治への影響についての基礎知識を得ることを目指します。それらを通し現代民主政治の直面する課題について考察し、受講者に初めに現代日本政治の特質と課題について基礎的な知識を得ること、次に国際政治の歴史と変容、国際政治から国内政治への影響についての基礎知識を得ることを目指します。それらを通し現代民主政治の直面する課題について考察し、受講者に社会の一員として現代政治への理解と主体的な関心を持ってもらうことを目標とします。</p>	
総合科目	基礎経済学A	<p>【概要】</p> <p>ミクロ経済学とマクロ経済学の入門分野に関する公務員試験等の問題演習が解けるようになることを目指す。したがって、講義は問題演習を中心に進める。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 専門用語の意味を厳密に理解する。</li> <li>2. 講義で扱ったテキストの章または節のところについて、演習問題が解けるようになること。</li> </ol>	

総合科目	民俗学A	<p><b>【概要】</b> 民俗学は、世代をこえて伝承されてきた習俗・慣習の調査・研究を通して生活文化のあり方やその基盤を追求する学問である。本講座では地域社会に伝承される生活文化を検討し、その基盤や変化、そして現在の存在意義を考える。とくに「民俗学A」では、生活と密着した衣食住や人生儀礼・生業をとりあげる。そういった民俗のありようを、社会の移り変わりの中で把握できるようにする。なお、本講座は「民俗学B」とつながりを持つ。</p> <p><b>【到達目標】</b> 民俗学とは、どのような学問か理解する。日本の民俗事象を理解し、その重要性を認識する。</p>	
総合科目	民俗学B	<p><b>【概要】</b> 民俗学は、世代をこえて伝承されてきた習俗・慣習の調査・研究を通して生活文化のあり方やその基盤を追求する学問である。本講座では地域社会に伝承される生活文化を検討し、その基盤や変化、そして現在の存在意義を考える。とくに「民俗学B」では、年中行事や祭り・民俗信仰など日本人の心意伝承をとりあげる。そういった民俗のありようを、時代や社会の変化の中でとらえ、その意味や変容を理解できるようにする。なお、本講座は「民俗学A」とつながりを持つ。</p> <p><b>【到達目標】</b> 民俗学とは、どのような学問か理解する。また、年中行事や民俗信仰等の民俗事象の意味を理解する。</p>	
総合科目	哲学・倫理学A	<p><b>【概要】</b> 哲学は、本質の探究であり、結果的には諸科学の概念の学問論的探求であるが、時に思想的に人間観や世界観的影響を持つこともある。倫理学は共同体の構成員が守るべき振る舞いの可能的規範の探求だが、時に支配者への従属が善であるという歴史的経過があるが、現在では討議倫理学など構成員のコンセンサス獲得の理論ともなっている。哲学・倫理学Aではその基本ラインをおさえ、哲学・倫理学の基本概念の理解を目指す。哲学・倫理学の基礎となる概念の理解。</p> <p><b>【到達目標】</b> 哲学・倫理学の考え方を習得すること。ソクラテスとアリストテレスの初歩的理解。</p>	
総合科目	哲学・倫理学B	<p><b>【概要】</b> 哲学は、本質の探究であり、結果的に諸科学の概念の学問論的探求である。時に思想的に人間観や世界観的影響を持つこともある。倫理学は共同体の構成員が守るべき振る舞いの可能的規範の探求だが、時に支配者への従属が善であるという歴史的経過があるが、現在では討議倫理学など構成員のコンセンサス獲得の理論ともなる。哲学・倫理学Bではその一分野に深く入ってゆく。現代の哲学が論戦する場面である、知識論の死、言語論的転回、意味の解体、心身問題から存在論へと議論を磨きあげる。</p> <p><b>【到達目標】</b> 現代哲学の主要潮流と主要概念の理解。</p>	
総合科目	ボランティア論	<p><b>【概要】</b> 「ボランティア」というイメージが先行しがちな概念を、多角的、かつ日常的にとらえることにより、その意味するところを深く理解する。また単にボランティアという概念を理解するだけでなく、身近なものとしてとらえるようにし、実践につなげられるようにする。そのために本講義では、理論的な解説にとどまらず、事例を豊富に扱う。またグループワークなどを通して、自分の意見を述べる力、相手の意見を聞く力を養成する。</p> <p><b>【到達目標】</b> ・ボランティアの概念を理解する。 ・身近なもの（実践の選択肢の一つ）としてボランティアをとらえるようになる。 ・多様なボランティアの事例を理解する。 ・自分の意見を言葉で言える力と、相手の話を聞く力を養成する。 ・ボランティアを通して、自分のライフプラン、キャリアに関する考えをもてるようにする。</p>	
総合科目	学校ボランティア論	<p><b>【概要】</b> 今日の学校教育で求められる「地域の教育力の導入」について、現状把握を行うとともに、体系的にボランティア活動をとらえ、考察する。現在進められている学校と地域社会との連携による開かれた学校づくりや安心・安全な学校づくりの実現に、学校ボランティア活動がどのような関わりを求められるかの理解を深めることを目的とする。</p> <p><b>【到達目標】</b> ・学校ボランティア活動の実際を体系的にとらえることができる。 ・学校の教育活動の中でどのように地域等の関わりを深めることができるか構想を膨らませることができる。 ・自己のボランティア意識の高揚を図り、積極的に学校教育との関わりを探究することができる。</p>	

総合科目	キャリア教育①	<p>【概要】 本学の文学部の学生として、本学の特色、社会から大学生が求められる能力等を的確に理解する。そのうえで、各自の大学での各種の目標設定や目標実現に向けて必要な各種のノウハウやツール等の基本を習得する。さらに、就職活動の流れやポイントを理解して、それらを念頭に置きながら、早期に先行きの職業選択等を自主的に行える基盤を作る。</p> <p>【到達目標】 授業での課題発表や就職時の面接等で必要な情報収集やプレゼンテーションの基本への理解を深めるとともに、社会人として求められる基礎学力（国語力、計算力等）、一般常識力等のレベルアップに向けたノウハウ等を習得する。その結果、将来の職業選択等の視野が広がるほか、自らが積極的に就職活動を展開できる基礎的な力を身につける。</p>	
総合科目	キャリア教育②	<p>【概要】 日本の産業を取り巻く国土や人口等の基本的な環境を改めて確認したうえで、日本の産業構造の変化をもたらした諸要因を主要産業別に概観する。そのうえで、今後の成長が期待される産業を展望する。この結果、将来の職業選択等に当たって必要となる主要な業種に関する知識が深まり、自らが進んで具体的な検討を進める基礎が形成される。</p> <p>【到達目標】 本講座を通じた日本の産業に関する知識の習得をベースに、新聞等を通じたその後の新たな動き等をフォロー・理解したうえで、自らの職業選択等を円滑かつ的確に行えるようになる。</p>	
総合科目	キャリア教育③	<p>【概要】 日本の産業・就業構造、企業の組織、財務分析の基本等に関する知識を習得したうえで、多くの業界で働く人の話を聞くことを通じて、社会で働くことをより身近に感じ、自らの職業観・人生観を醸成することにつなげる。日本の主要な業界の役員や人事担当者の講義に学ぶことにより、卒業後の自分の進路の方向付けが具体的になるようにする。</p> <p>【到達目標】 業種、職種等による働き方等の違いを理解したうえで、企業の社会的な役割とは何か、企業で働くとはどういうことか等について具体的なイメージを持つことにより、将来の職業選択が円滑に行えるようになる。</p>	
総合科目	キャリア教育④	<p>【概要】 日本経済の自然・社会環境、戦後の歴史、現状や今後の課題に関する基本的な知識を習得する。そのうえで、就職活動で重要な業界・職種・企業研究の基礎を学んだ後に、グループワークにより、具体的な業種・企業研究を取りまとめて発表して、実践力を身につける。これらを通じて、就職活動でのエントリーシート作成、グループディスカッション等への対応力を高め、学生が自発的かつ積極的に就職活動を展開できる基盤を作る。</p> <p>【到達目標】 本授業の履修により、上場企業、公務員（行政職）等の採用試験にも自信を持って対応できる人材へのレベルアップのベースが形成される。</p>	
総合科目	インターンシップ論	<p>【概要】 「在学中に、教育の一環として、企業等で、企業等の指導のもと、一定の期間行う就業体験およびその機会を与える制度」です。学生時代にぜひとも挑戦してください。授業は実学主義に則り進めますので、就職活動にも役立ちます。講座は、魅力行動を敬意表現のうえからも身につけ、「礼に始まり礼に終わる」態度を涵養します。</p> <p>目的：①インターンシップへの理解を深める。②働くことおよびキャリア形成への理解を深める。③社会生活や仕事に必要な知識やスキルを身に付け、人格を陶冶する。</p> <p>【到達目標】 ①適切な挨拶ができる。②適切な通信文書が書ける。③適切な振舞いができる。</p>	
総合科目	ジェンダー論A	<p>【概要】 私たちの生きている社会は、大きな変革期にさしかかっています。その変化がどのように生じ、展開しているのかを、ジェンダーを通じて考えます。私たちが自然な性差と思っていることは、そのほとんどが言語的・社会的に作られたものであることを明らかにし、その過程を分析することを通じて、私たちの社会に存在する様々な権力関係を考えるきっかけとします。ジェンダー、性差、セクシュアリティ、恋愛・婚姻、家族、親密性、等の諸概念を理解し、社会の権力とポリティクスの在り方を考える。</p> <p>【到達目標】 ジェンダーという視点を通じて社会学の基礎的な発想法や視点を獲得し、身近な社会現象を社会的視点で解釈できるようになること。</p>	

総合科目	美術史A	<p><b>【概要】</b> 日本は、東アジアの国々の影響を強く受けながら、様々な芸術文化を育んできた。時代とともに変化し、多様化した芸術文化の断片が、現在数々の作品として残されている。これらの作品を素材に、社会背景や制作者（集団）、人々の美意識について考察する。今期は飛鳥～平安時代にかけての日本の美術に焦点を当てる。日本美術史をこれから学ぶ学生が、美術史を理解するために必要な用語、作例等の基礎知識を身につける。私たちに身近な日本の文化を美術史を通して学ぶ。</p> <p><b>【到達目標】</b> 日本の美術史における時代区分が明確にでき、その時代における主要作例について理解する。作品のスライドを観賞することにより、日本の美術を理解する。</p>	
総合科目	美術史B	<p><b>【概要】</b> 日本は、東アジアの国々の影響を強く受けながら、様々な芸術文化を育んできた。時代とともに変化し、多様化した芸術文化の断片が、現在数々の作品として残されている。これらの作品を素材に、社会背景や制作者（集団）、人々の美意識について考察する。今期は平安～江戸時代にかけての日本の美術に焦点を当てる。日本美術史をこれから学ぶ学生が、美術史を理解するために必要な用語、作例等の基礎知識を身につける。</p> <p><b>【到達目標】</b> 日本の美術史における時代区分が明確にでき、その時代における主要作例について理解する。作品のスライドを観賞することにより、日本の美術を理解する。</p>	
総合科目	基礎漢文A	<p><b>【概要】</b> この授業では、識字（より実際には習字）の初等教科書として長く使われてきた『千字文』をテキストとして、漢文の基礎となる熟語表現や、中国古典の世界観を学びます。『千字文』は名前の通り、千字の異なる漢字からなる韻文で、四字を一句として構成されています。漢文法の基礎となる熟語や対句の感覚を養うのに適しています。また自然現象、人物歴史、儒教徳目、社会制度、人間関係など中国の伝統文化の概要を学ぶこともできます。</p> <p><b>【到達目標】</b> 漢文を読む上で必要となる中国文化の基礎知識を身につけ、また漢和辞典を使いこなせるようになる。</p>	
総合科目	宇宙科学A	<p><b>【概要】</b> 太陽系をはじめ、太陽、恒星の説明。これらを理解するための最小限の物理的概念の説明。数式は使わない。宇宙観の歴史と、現在の惑星、太陽、恒星観。</p> <p><b>【到達目標】</b> 星の話を通して、科学の基礎知識を学ぶ。</p>	
総合科目	宇宙科学B	<p><b>【概要】</b> 宇宙全体の成り立ちを説明する。宇宙は無限か？有限か？、宇宙の始まりは？数式等は一切使わない。宇宙に関する基礎的な知識の習得。また、その理解に必要な物理科学的な基礎知識の習得。</p> <p><b>【到達目標】</b> 宇宙に対する関心があればそれで良し。</p>	
総合科目	生命哲学A	<p><b>【概要】</b> 生命に対応する西欧語レーベンやライフは、生命・生活・「生きる（人生）」という三つの意味を持っている。生命哲学はこのような広義の生の哲学的考察を紹介する。生命哲学Aは基礎的な考察を行う。生は科学技術の発展によって危機的状況に陥っていると感じられる。科学技術立国の我が国では我々の生の中に科学技術をどのように位置づけるかは大切な問題である。Aは環境問題をとりあげ、最新の科学論を紹介し、ハイデッカーらの意味づけを論じる。新しい科学哲学の潮流と主要概念の理解。</p> <p><b>【到達目標】</b> 科学哲学の主要概念の理解。</p>	

総合科目	生命哲学B	<p><b>【概要】</b> 生命に対応する西欧語レーベンやライフは、生命・生活・生きるという三つの意味を持っている。生命哲学はこのような広義の生の哲学的考察を紹介する。鉄腕アトムによって科学技術を肯定的に捉え、ウルトラマンで科学技術の悲哀を訴えた。前半では宮崎氏のナウシカで科学技術をどのように位置づけたかを論じる。続いて形而上学が自然科学の基礎づけとしてどのような機能をはたしたかを検討し、後半で生命体である人間とロボットの比較、コンピューターと人間の脳の類比論など。科学技術と環境問題についてより深く学ぶ。</p> <p><b>【到達目標】</b> AI（人工知能、コンピュータ的知能）問題を論じ、理解と初歩的知識の習得。</p>	
総合科目	基礎数学A	<p><b>【概要】</b> パズルを中心に、中学受験問題や高校レベルの論理に関する問題等を授業中に考えてもらう。数学の知識を必要とはしない。考える力をつけること。つまり、1つのことを徹底的に考え抜く姿勢を身につける。</p> <p><b>【到達目標】</b> 実用的には、文系学生に求められる就職試験レベルの数学、論理をこなせるようになること。</p>	
総合科目	基礎数学B	<p><b>【概要】</b> パズルを中心に、中学受験問題や高校レベルの論理に関する問題等を授業中に考えてもらう。数学の知識は必要としない。考える力をつけること。</p> <p><b>【到達目標】</b> 就職試験で、文系学生に求められる数学の基礎知識を身につけること。</p>	
総合科目	情報科学①A	<p><b>【概要】</b> コンピューターとのコミュニケーションに必要なツールのうち導入が楽でポピュラーなプログラミング言語であるVisual Basic .NET(現 Visual Studio Community)について学んでいきます。はじめにソースコード入力のためのキーボード練習と情報処理の基礎を復習し、プリントに従ってプログラミング言語での情報の伝達・処理の構造を学び進めます。</p> <p><b>【到達目標】</b> 情報処理においては、キーボード処理の自由度と、データ入力の正確さが求められ、情報の活用に繋がります。プログラミング言語やアプリケーションソフトをマスターする事により曖昧であった情報が示す方向が見えてきます。本授業では情報処理の基礎を復習後、プログラミング言語の基本的な流れをマスターする事を目指します。</p>	
総合科目	情報科学①B	<p><b>【概要】</b> PowerPointの実戦処理の基本操作を学習します。課題としての絵本作成などを通して、レポートや授業での発表の際のデータ作成に応用が出来るよう、応用力のある操作方法を楽しみながら身に付けることを目指します。また、Web情報発信処理としてHTML及びCSSの基本処理のマスターも目指します。</p> <p><b>【到達目標】</b> ①PowerPointの使用に慣れ、効果的な情報発信を目指します。②Officeソフトを上手に活用し、より専門的な発表資料の作成を目指します。③インターネットで必要な情報を収集・発信できることを目指します。</p>	
総合科目	情報科学②A	<p><b>【概要】</b> インターネットを利用したコミュニケーションツールは広く普及し、FacebookやTwitter、LINEといったアプリケーションの登場によって、個人がより簡単に必要な情報を入手でき、情報発信することを可能にした。こうしたICTツールが日常の様々な場面で活用されることで、私たちの生活の利便性は高まる一方で、情報の不正な入手や利用等の問題も起きている。本授業では、パソコンの基礎知識やインターネットの利用上の倫理を理解したうえで、ICTツールを利用した情報収集や活用策について学習する。</p> <p><b>【到達目標】</b> パソコンとソフトウェア（Word、PowerPoint）の基本操作、情報に関するモラルやルールを理解したうえで、ネット上の情報の収集・活用策を実践的に学び、レポートを作成すること。</p>	

総合科目	情報科学②B	<p>【概要】 インターネットを利用したコミュニケーションツールは広く普及し、FacebookやTwitter、LINEといったアプリケーションの登場によって、個人がより簡単に必要な情報を入手でき、情報発信することを可能にした。こうしたICTツールが日常の様々な場面で活用されることで、私たちの生活の利便性は高まる一方で、情報の不正な入手や利用等の問題も起きている。本授業では、パソコンの基礎知識やインターネットの利用上の倫理を理解したうえで、ICTツールを利用した情報収集や活用策について学習する。</p> <p>【到達目標】 パソコンとソフトウェア (Excel) の基本操作、情報に関するモラルやルールを理解したうえで、ネット上の情報の収集・活用策を実践的に学び、レポートを作成すること。</p>	
総合科目	マスメディア論A	<p>【概要】 マスメディアは、新聞やニュース報道などを通じて世論の形成に大きな影響力を持っていることから、立法、行政、司法に次ぐ「第4の権力」と言われている。本授業では、こうしたマスメディアと政治の関係を中心に、政権交代や世論、政策形成等の具体的な事例を通じて考えていく。</p> <p>【到達目標】 情報爆発時代におけるマスメディアと政治の関係を学び、情報社会のあり方と自分自身との関係の変化を考え理解することができる。</p>	
総合科目	情報処理①	<p>【概要】 現代社会では、文系・理系を問わず、コンピュータを用いて情報処理をおこなう必要性が極めて高くなっている。この授業では、コンピュータを用いた情報処理の基本的な技術に加えて、情報社会における倫理観についても理解を深めていくことを目的とする。</p> <p>【到達目標】 1. ワードを使用して学術的なレポートが作成できる。 2. エクセルを使用して表やグラフを作成できる。 3. パワーポイントの基本が理解できる。 4. 情報社会における倫理観が理解できている。 5. インターネットに必要な情報が収集できる。</p>	
総合科目	情報処理②	<p>【概要】 コンピュータを用いて情報を発信していくための基本的な技術を習得する。この授業では、単に情報を収集するだけでなく、積極的に情報を作り出し、発信していくための発表技術を向上させることを目的とする。</p> <p>【到達目標】 1. ワードやエクセルを基本を確認することができる。 2. 情報社会における高度な倫理観を身に付けることができる。 3. パワーポイントの使用に慣れ、効果的な情報発信ができるようになる。 4. ワード、エクセル、パワーポイントを駆使して、より専門的な発表資料を作成できる。</p>	
総合科目	情報処理アドヴァンス①	<p>【概要】 現代の高度情報化社会においては、コンピュータを取り扱うスキルは必須条件となっています。特に、Microsoft Officeの取り扱いに慣れていることは、もはや暗黙の了解になっているといっても過言ではありません。本講義では、Office製品群の中からWordとExcelを取り上げ、これらの“中級レベル”の操作方法に親しむことを目的とした実習を行います。</p> <p>【到達目標】 (1)WordやExcelに備わるやや高度な機能の利用方法の習得, (2)Excelで身に付けた技術のWordへの応用, 以上2点を目標とします。</p>	
総合科目	情報処理アドヴァンス②	<p>【概要】 現代の高度情報化社会においては、コンピュータを取り扱うスキルは必須条件となっています。Microsoft Officeの取り扱いに慣れているのはもちろんのこと、HTMLと呼ばれる、ソフトに依存しないコンピュータ言語の利用を求められる場面も多々あります。本講義では、PowerpointおよびHTMLを主に取り上げ、(1)魅力的なプレゼンテーションを行う能力の習得、(2)HTMLによるWebページの作成を通じたコンピュータ言語の知識の習得、以上2点を目的とした実習を行います。</p> <p>【到達目標】 (1)Powerpointに備わる様々な機能の効果的な利用方法の習得, (2)Office製品群の横断的な活用方法の習得, (3)HTMLを用いた魅力的なWebページの作成, 以上3点を目標とします。</p>	

総合科目	地球環境論A	<p>【概要】 今日の地球環境問題の多くは、かつての公害と異なり、私達が被害者であると共に加害者になっている。将来にわたり豊かな地球環境を引き継ぐために、日々の生活スタイルを見直し環境にやさしい生き方・住まい方・考え方を模索しつつ実践する理論と知識を習得する。</p> <p>【到達目標】 あらゆる地球環境関連問題についての確に判断できる知識と技術を習得し、今後諸活動を行う際、常に環境の視点を付加し、物事を決定・実践する際に視野の拡大と多様化を図る。さらに、地球環境論を履修した成果を就活に生かすため、エコ検定試験の合格を目指す。</p>	
総合科目	地球環境論B	<p>【概要】 今日の地球環境問題の多くは、かつての公害と異なり、私達が被害者であると共に加害者になっている。将来にわたり豊かな地球環境を引き継ぐために、日々の生活スタイルを見直し環境にやさしい生き方・住まい方・考え方を模索しつつ実践する必要がある。そのために、地球環境論Aに引き続きより幅広い理論と知識を習得する共に、実践を試みてもらう。さらに、プレゼンテーションを実践し手法を習得する。</p> <p>【到達目標】 地球環境論Aより幅広く高度な地球環境関連問題について、的確に判断できる知識と技術の習得を目指す。今後諸活動を行う際、常に環境の視点から物事を考え行動するよう動機・習慣づけられるようにする。さらに、地球環境論を履修した成果を就活に生かすため、エコ検定の受験し合格を目指す。</p>	
総合科目	総合英語Ⅰ（コミュニケーション）	<p>【概要】 文部科学省の謳う「『英語が使える日本人』の育成」の考えに基づき、英語の、読む・書く・話す・聴く、四技能の力を再構築しながら、その上で oral communication を実際に可能にする実践力 - 技術や考え方、総合的な英語力 - を育む。正しい発声に基づく、「わかりやすい、英語らしい英語」の発音を習得する。</p> <p>【到達目標】 上記四技能を再構築し、その上で、「その結果、実際に何かがわかり（理解でき）、それに英語で対応できる力」をつける。日本語が使用できない状況で、「英語でなんとかする」ことができるようにする。また、「英語として認識できるレベルの発音・発話」ができる。</p>	
総合科目	総合英語Ⅱ（TOEIC）	<p>【概要】 この授業はコミュニケーション能力とTOEICのスコアをあげることを目的としているので、聞く力、読解力、話す力、書く力をバランスよく養成します。聞く力、話す力を伸ばすために、ペア、グループ活動で会話練習をするなど、学生参加型のコミュニケーション型授業になります。また、読解力、書く力を伸ばすために文法学習も取り入れ、苦手な文法項目を克服してTOEICの問題形式になれるようにしていきます。</p> <p>【到達目標】 TOEICの形式を把握し、聞く力、読解力、話す力、書く力をバランスよく伸ばす。英語を聞いたり読んだりするために苦手な文法事項をなくして、必要な語彙力、聞く力を伸ばす。TOEICの目標スコアを自ら設定して、自主的にTOEIC受験にむけて学習できる。</p>	
総合科目	総合英語Ⅲ（映画）	<p>【概要】 中学・高校で学んだ英語の知識を復習し、音声による英語の理解力を養成することを目的とします。</p> <p>【到達目標】 英語の基礎的な語法および音声に慣れることを目標とします。</p>	
総合科目	総合英語Ⅳ（日常生活）	<p>（英文）【概要】 The purpose of this course is to improve listening and speaking ability for common conversational topics. This practice will also lead to expanding vocabulary.</p> <p>【到達目標】 Have the opportunity to have further practice in listening to and speaking about topics which some passive knowledge may be had.</p> <p>（和訳）【概要】 日常英会話におけるリスニング力およびスピーキング力を高めていきます。授業での演習を通じて単語力も伸ばしていきます。</p> <p>【到達目標】 皆さんが知っているような話題について、実際に英語で「聞き」「話す」ことを目標とします。</p>	

総合科目	総合英語Ⅴ（海外旅行）	<p>（英文）【概要】 The purpose of this class is to upgrade basic listening and speaking abilities while introducing the area of conversation called travel English.</p> <p>【到達目標】 Improvement of conversational skills by use of higher-level vocabulary and grammar related to travel English.</p> <p>（和訳）【概要】 旅行で使う英会話を取り入れながら、基本的なリスニング力、スピーキング力をさらにグレードアップしていきます。</p> <p>【到達目標】 旅行英会話に関連するハイレベルな単語と文法を使い、会話力を高めていくことを目標にします。</p>	
総合科目	総合英語Ⅵ（ビジネス）	<p>【概要】 ビジネスでの出張に必要な英語を、飛行場、ホテル滞在、レストラン、その他、様々な状況で学ぶ。会話の聞き取り、理解、発話練習などを通し、総合的な英語力を養うことを目的とする。</p> <p>【到達目標】 ビジネスでの旅行で必ず必要となる表現を一通り習得し、海外に出て旅行中英語で困らないだけの英語力をつける。アメリカや英国と日本との文化的相違やマナーの違いなども学び、海外でのビジネスの場で適切な対話や発言が出来るようになる。</p>	
総合科目	総合英語Ⅶ（メディア）	<p>【概要】 この授業では情報のマルチメディア化に対応できるように、BBCドキュメンタリーの映像を用いて、聞く力、話す力と語彙力を養います。ペア・グループ活動で身近なニュースについて活発な意見交換を行います。各セメスターで発表原稿を作成し、クラスメートの前で発表を行ってもらいます。</p> <p>【到達目標】 身近な事柄、ニュースに関して、その大意を聞き取ることができ、それに対して意見を述べ、積極的にコミュニケーションを図ることができる。発表原稿を作成し、クラスメートの前で、発表を行うことができ、また、その評価を行うこともできる。</p>	
総合科目	総合英語Ⅷ（アカデミック）	<p>【概要】 TOEFL iBT testの受験対策テキストを用い、英語圏に留学するために必要な英語力を養います。実際の問題を解きながら、読解力、リスニング力、文法力、作文力、会話力を身につけるための学習をします。英文を読み、日本語に訳す作業を介在させることなしに英文での問いに英文で答える練習、すなわち、英語で考え、英語で内容をまとめたり答えたりする練習もします。テキストのほか、プリントを配布し、長文を読み、内容を理解する多読の練習もします。</p> <p>【到達目標】 英語圏の大学に留学するために必要な読み、書き、聞き取り、話す力を向上させる。ある程度まとまった分量の英文を、抵抗なく読むことができるようになる。英語をいちいち日本語に訳さないで英語で考える力を身につける。</p>	
総合科目	総合英語（文）	<p>【概要】 この授業では現代社会における様々なトピックスを読み進めながら、語彙力、文法事項の理解度、聞き取る力、書く力をバランスよく養成し総合的な英語力の向上を目指します。トピックスの内容に関する会話や意見交換をペアやグループで行い、コミュニケーション能力も高めていきます。</p> <p>【到達目標】 英語の文章の特徴を知り、語彙力を高め、苦手な文法事項をなくすことによって、読解力を高める。速読で文の大意を把握できるようになる、英語で自分の意見を述べ、積極的にコミュニケーションをとれるようにする。</p>	
総合科目	ドイツ語①	<p>【概要】 ドイツ語を初めて学ぶ学生のための入門コース。会話表現にも配慮されたテキストを用いてドイツ語の基本的な文法事項を学ぶ。文法一辺倒の授業にならないように、ドイツ語圏の文物についても随時言及しながら、CD・ビデオ・DVDを活用する予定である。ドイツ語の学習を通して異文化的視点を涵養することも本授業の狙いである。</p> <p>【到達目標】 基本的なドイツ語運用能力の習得が本授業の到達目標である。より具体的にはドイツ語技能検定試験の5級から4級程度の総合的な能力養成が目標となる。</p>	

総合科目	ドイツ語②	<p>【概要】 西欧最大の言語圏を誇るドイツ語を学ぶことで、日本語・英語に限定されがちな枠を越えて、世界に対する新たな視野を拓きましょう。この授業では、会話表現を中心としたドイツ語の習得を目標とします。さまざまなシチュエーションにおける会話文を題材に練習を繰り返して、簡単な日常会話を行うのに必要な基本文法・語彙・表現を習得します。さらに独語・ドイツ文化を介して母国の言語・文化を見直す機会としたいところです。</p> <p>【到達目標】 ドイツ語およびドイツ語圏文化に関する基本的な知識を習得し、ドイツ語による基礎的な日常会話ができるようになることを目的とします。</p>	
総合科目	ドイツ語③	<p>【概要】 西欧最大の言語圏を誇るドイツ語を学ぶことで、日本語・英語に限定されがちな枠を越えて、世界に対する新たな視野を拓きましょう。ドイツ語③では、独語の総合的な運用能力（読む・書く・聞く・話す）の習得を目標とする練習を行います。これはまた、それ以上を目指すために必須の基本事項でもあります。さらに独語・ドイツ文化を介して母国の言語・文化を見直す機会としたいところです。</p> <p>【到達目標】 ドイツ語およびドイツ語圏文化に関する基本的な知識を習得し、ドイツ語検定試験の4級から3級程度の総合的なドイツ語運用能力を身に付けることを目標とします。</p>	
総合科目	フランス語①	<p>【概要】 フランス語を初めて学ぶひとを対象としてABCから始め、日常よく用いられる表現、またその表現に関連した文法を説明します。また折に触れ音楽や映画、文学などフランスの文化について解説します。</p> <p>【到達目標】 フランス語の基礎能力（フランス語検定5級合格程度）を身につけ、簡単な日常会話を覚える。</p>	
総合科目	フランス語②	<p>【概要】 フランス語を初めて学ぶ人のための入門クラスである。単語の読み方、語彙と文法の基礎を身につけ、簡単な日常会話をこなす能力を養う。フランス語を修得するうえで基礎となる事柄を学習すること。文法の解説に重点をおく。</p> <p>【到達目標】 初歩的な日常フランス語を理解し、読み、聞き、書くことができるようになること。フランス語検定試験五級合格程度の能力の養成を目指す。</p>	
総合科目	フランス語③	<p>【概要】 フランス語の基礎を復習しながら、一年次で扱えなかったさまざまな過去や未来の表現を学びます。後半は簡単な童話を読みましょう。折に触れて、シャンソンを聞き、映画の一部を見ます。</p> <p>【到達目標】 一年次で学んだフランス語の基本的知識を使いこなせるようにします。辞書を使い、簡単なテキストを理解し、またさまざまな場面の会話表現を学びましょう。フランス語検定4級から3級程度の実力をつけることを目標にします。</p>	
総合科目	ロシア語①	<p>【概要】 まずロシア語の文字と発音に慣れることから始め、初歩のロシア語文法を短文による簡潔な表現を通して学んでいくことにします。ロシア語の文法は語形変化が多いので、ゆっくりと進めるようにします。最終的に、辞書を引きながら独力でロシア語の文章が読めるレベルの文法力を目指します。また、ロシアの文化や人々の暮らしについて、折にふれて紹介するようにします。</p> <p>【到達目標】 ローマ文字とは異なるロシア語独自の文字に慣れ、基本語彙を習得し、最終的に、語形変化の多い文法体系の初歩を理解することを目標とします。</p>	

総合科目	ロシア語②	<p><b>【概要】</b> 入門レベルのロシア語の基礎的文法の知識を前提に、できるだけ話せるロシア語を身につけることを目指します。また、接することの少ないロシア文化を紹介していき、語学の背景となっているロシア社会の理解に努めます。限られた時間の中で多彩な内容を盛り込んでいきたいです。</p> <p><b>【到達目標】</b> ロシア語辞書を自由に使いこなせるようにし、平易なロシア語の文章であれば、理解しうる程度までの語学力に到達することを目指します。</p>	
総合科目	ロシア語③	<p><b>【概要】</b> 履修者各自が、基礎的文法事項を踏まえたうえで、ロシア語の重要表現を理解し、シチュエーションに応じてそれらを使いこなす応用力を身につけることを目的とします。</p> <p><b>【到達目標】</b> 辞書を引けば、新聞やネットなどのロシア語を読んでその概要が理解でき、自らの関心を引くテーマに主体的にロシア語で接する意欲を持つことが目標です。</p>	
総合科目	中国語①	<p><b>【概要】</b> 初級中国語文法の基礎を固める、中国語「入門」の科目です（初級者対象）。学習力をつけるために予習・復習は必ずしてください。（教科書は必須、辞書も用意してください）。 ※各クラスとも同一の教科書を用いますので、レベルアップをさせていただきます。</p> <p><b>【到達目標】</b> 発音をマスターし、中国語の基本的構文の理解を目標とするとともに、会話にも力を入れ、「使える中国語」を目指します。</p>	
総合科目	中国語②	<p><b>【概要】</b> 初級中国語文法の基礎を固める、中国語「初級」の科目です（初級者対象）。併せてリスニング・スピーキングの能力を鍛えます。 ※各クラスとも同一の教科書を用います。</p> <p><b>【到達目標】</b> 中国語の文章を正確に読み取るすることを目標とすると共に、「聞く・話す」にも力を入れ、「使える中国語」を目指します。</p>	
総合科目	韓国語①	<p><b>【概要】</b> 初めて韓国語を学ぶ者を対象とした初級科目である。ハングル（韓国語の文字）の読み方、書き方、基本的な文法、挨拶などを、ドラマで実際に使われている場面を使って学習する。生きた韓国語を初歩から学ぶ。</p> <p><b>【到達目標】</b> ハングルの基本的な読み方がわかる。ハングルが書ける。基本的な挨拶ができる。簡単な文章が読める。</p>	
総合科目	韓国語②	<p><b>【概要】</b> 韓国語を初めて学ぶ者を対象とした、初級科目である。日常的によく使われる簡単な会話を学びながらハングル（韓国語の文字）とその発音、基礎的な文法を習得する。あわせてその背景となる韓国の歴史や文化についても学ぶ。</p> <p><b>【到達目標】</b> ハングルを読み、書くことができる。韓国語の基本的な文法を理解する。簡単な日常会話ができる。</p>	
総合科目	韓国語③	<p><b>【概要】</b> 韓国語の初級を学んだ者を対象とした、中級科目である。初級で学んだ発音や文法の知識をより確実にし、さらに詳しいハングルの発音変化や文法、日常生活でよく使われる表現を学んで、実際に使える韓国語の力を養う。</p> <p><b>【到達目標】</b> 発音の変化を踏まえてハングルを正確に読み書きできる。日常的な韓国語を聞き取り、読み、書くことができる。</p>	

総合科目	日本語①A	<p><b>【概要】</b> 日本古典作品を取り扱う。留学生にとって、古典作品に触れる機会は少ないと思うが、本授業では、古典の基礎や文法、様々な古典作品を学び、日本の古典文学の大まかな流れも理解したい。古典入門とし、現代文との違い（歴史的かなづかひの理解）や古典常識（時や方位、十干十二支等の理解）、古典文法の基礎や和歌の修辭法などを学び、基礎をしっかりと理解する。</p> <p><b>【到達目標】</b> ひとりで古文を読めるようにし、基礎の古典文法や古典常識を理解することで、自身で古語辞典を引きながら、短文を解釈できるようになることを目標とする。</p>	
総合科目	日本語①B	<p><b>【概要】</b> 時代順に日本古典作品を取り扱う。日本語①Aで習得した基礎古典をもとにして、様々な古典作品に触れ、古典世界を味わう。古文を現代語訳し理解することで、日本語の読解力も養う。日本語①Aで学んだ基礎古典から、自分自身で古文を読み、現代語訳できる力を養う。</p> <p><b>【到達目標】</b> 様々な古典作品を読み、自ら現代語訳することで、日本の古典世界を理解できるようになることを目標とする。また、正しい現代語訳ができるように日本語力も身につける。</p>	
総合科目	日本語②中級A	<p><b>【概要】</b> 授業における日本語でのインタビュー、プレゼンテーション等の発表能力や問い合わせ、お願い、雑談といった日常会話におけるスムーズな会話技術を身につけることを目的とする。</p> <p><b>【到達目標】</b> 日本語での自己発表の技術を身につけ、また、なるべく効率よく、相手を不快にさせないコミュニケーション能力を伸ばすことを目標とする。</p>	
総合科目	日本語②中級B	<p><b>【概要】</b> 面接、スピーチ等フォーマルな場面の日本語での発表能力を身につけ、また、いろいろなテーマでクラスメートと意見交換しながら、日本語のコミュニケーション能力を身につけることを目的とする。</p> <p><b>【到達目標】</b> 日本語での自己発表の技術を身につけ、自分の意見を自由に表現できるようにすることを目標とする。</p>	
総合科目	日本語②上級A	<p><b>【概要】</b> 文学・語彙、文法等、日本語能力試験1級合格程度の日本語力を前提として、各学部の授業（特にゼミナール）における口頭発表、質疑応答、討論等のできる口頭表現力の訓練を行う。特に敬語表現の学習を行う。様々な場面で使用される敬語を、場面を設定して学習し、スムーズな敬語表現ができる力を養う。</p> <p><b>【到達目標】</b> 正式な場面や目上の人に対する敬語表現を身につける。学内のみならず、一般社会でも敬語を使用できるようにする。</p>	
総合科目	日本語②上級B	<p><b>【概要】</b> 文字・語彙、文法等、日本語能力試験1級合格程度の日本語力を前提として、各学部の授業（特にゼミナール）における口頭発表、質疑応答、討論等のできる口頭表現力の訓練を行う。特にスピーチ等の学習を行う。様々な場面で、自分が相手に伝えたいことや、表現したいことを的確に表現できる力を養う。</p> <p><b>【到達目標】</b> 自分の考えや思いを、的確な日本語表現を使い、口頭で相手に伝えられる力を養うことを目標とする。</p>	
総合科目	日本語③中級A	<p><b>【概要】</b> 文字・語彙、文法等、日本語能力試験2級合格程度の日本語力を前提として、各学部の授業における発表原稿、レポート、小論文等、文章表現の訓練を行う。特に文章表現の基礎を学習する。原稿用紙の使い方等、基本的な書式を学びながら、文章表現の基礎固めを行う。</p> <p><b>【到達目標】</b> 文章表現の基礎を学習し、簡単なレポート作成ができるようになることを目標とする。</p>	

総合科目	日本語③中級B	<p><b>【概要】</b> 文字・語彙、文法等、日本語能力試験2級合格程度の日本語力を前提として、各学部の授業における発表原稿、レポート、小論文等、文章表現の訓練を行う。特に短文から論理的なレポートが書けるように、段階的に書く練習を行う。簡単な短文から始めて、最終的には自ら資料を探し、論理的なレポートが書ける力を養う。</p> <p><b>【到達目標】</b> レポートを書くために、資料を探し、分析し、自分の意見が述べられるようになることを目標とする。</p>	
総合科目	日本語③上級I A	<p><b>【概要】</b> 留学生を対象に、専門のゼミナールにおける発表原稿、レポート、小論文、卒業論文等の作成に必要な基礎を身につけることを目的とした授業をおこなう。授業では、日本語でレポート等を作成する際に使われる文型・表現およびレポートの構成等を中心に取り上げ、受講者の考え、意図することが日本語でより正確に表現できることを目指す。なお、授業におけるコミュニケーションは日本語（中国語での対応可能）でおこなう。</p> <p><b>【到達目標】</b> レポートや論文でよく使われる文型や表現、展開パターンを習得し、論理的な文章が作成できるようになることを目標とする。</p>	
総合科目	日本語③上級I B	<p><b>【概要】</b> 留学生を対象に、専門のゼミナールにおける発表原稿、レポート、小論文、卒業論文等の作成に必要な基礎を身につけることを目的とした授業を行う。授業では自分の関心のあるテーマについて、論証型のレポートを作成し、受講者の意図が日本語でより正確に表現できることを目指す。なお、授業におけるコミュニケーションは日本語（中国語での対応可能）で行う。</p> <p><b>【到達目標】</b> 自分の関心のあるテーマについて、必要な資料・情報の収集、分類、検討をおこない、自分の思考をまとめ、読み手にとってわかりやすいレポート（4000字程度）を完成することを目標とする。</p>	
総合科目	日本語③上級III A	<p><b>【概要】</b> 留学生を対象とし、大学の講義におけるレポートや小論文の書き方（個人的な感想文やエピソード文ではなく、感情や主観を抑えた論述文の書き方）を基礎から学習する。受講者の使用言語は指定なしであるが、クラスにおけるコミュニケーションは日本語（英語も可）で行う。文章による表現技術を養成する。的確な表現を使い、正しい構造の文を書くこと、構成のしっかりした論理的な文章を書くことを主なねらいとする。</p> <p><b>【到達目標】</b> 授業計画にそって、基礎的な表現技術の1から7のステップを身につける。</p>	
総合科目	日本語③上級III B	<p><b>【概要】</b> 留学生を対象とし、大学の講義におけるレポートや小論文の書き方（個人的な感想文やエピソード文ではなく、感情や主観を抑えた論述文の書き方）を基礎から学習する。受講者の使用言語は指定なしであるが、クラスにおけるコミュニケーションは日本語（英語も可）で行う。この講義は、日本語③上級Aの続きであり、先にAを履修していることが望ましい。文章による表現技術を養成する。的確な表現を使い、正しい構造の文を書くこと、構成のしっかりした論理的な文章を書くことを主なねらいとする。</p> <p><b>【到達目標】</b> 授業計画にそって、基礎的な表現技術の8から12のステップを身につける。</p>	

総合科目	日本語④A	<p><b>【概要】</b> 日本の大学の授業は専攻を問わず、受講者が現在の日本社会のしくみや地理、歴史と伝統についての常識を備えていることを前提として行われている。この科目ではその前提となっている日本に関する常識を、政治・経済・地理・歴史の分野に分けて演習形式で学んでいく。さらに総合的な日本語力の向上もはかる。日本の地理、歴史を中心に、与えられたテーマについて調べ、パワーポイントをつかいながら日本語で発表できるようになる。</p> <p><b>【到達目標】</b> ・日本の地理、歴史の基本を知る。 ・レジュメとパワーポイントを使って日本語で正確に説明できるようになる。 ・日本語で、日本の地理・歴史・伝統・文化等、事実を誤りなく説明できるようになる。</p>	
総合科目	日本語④B	<p><b>【概要】</b> 日本の大学の授業は専攻を問わず、受講者が現在の日本社会のしくみや地理、歴史と伝統についての常識を備えていることを前提として行われている。この科目ではその前提となっている日本に関する常識を、政治・経済・地理・歴史の分野に分けて演習形式で学んでいく。さらに総合的な日本語力の向上もはかる。日本の地理、歴史を中心に、与えられたテーマについて調べ、パワーポイントをつかいながら日本語で発表できるようになる。</p> <p><b>【到達目標】</b> ・日本の地理、歴史の基本を知る。 ・レジュメとパワーポイントを使って日本語で正確に説明できるようになる。 ・日本語で、日本の地理・歴史・伝統・文化等、事実を誤りなく説明できるようになる。</p>	
総合科目	短期海外研修①	<p><b>【概要】</b> 海外協定校で実施される英語研修プログラムです。この英語研修プログラムでは、集中演習形式での講義を実施します。少人数クラスでの英語の指導、課外活動（現地学生との交流会、博物館見学等）、ホームステイによる英語実践から構成されています。参加希望者は、ガイダンスに出席の上、英語の試験（ヒアリング・筆記）を受験して下さい。</p> <p><b>【到達目標】</b> 英語運用能力を向上させる。また、英語文化圏における総合的な理解や認識を深める。</p>	集中
総合科目	短期海外研修②	<p><b>【概要】</b> 海外協定校、北京大学（中国）で実施する中国語・歴史学系研修プログラムです。この中国語研修プログラムでは、集中演習形式での講義を実施します。少人数クラスでの中国語の指導、北京大学歴史学系の教授による中国歴史文化講座、課外活動（現地学生との交流会、名所旧跡等見学）から構成されています。参加希望者は、ガイダンスに出席の上、中国語の試験（ヒアリング・筆記）を受験して下さい。</p> <p><b>【到達目標】</b> 中国語運用能力を向上させる。また、中国についての総合的な理解や認識を深める。</p>	集中
総合科目	健康スポーツ科学A	<p><b>【概要】</b> 身体を動かす実技ではなく、自分の体の仕組みや心の疲労をチェックすることで、ストレス社会を生きやすくするための授業です。自分自身の振り返りや、健康に生きることの意味について考えていきます。加齢に伴い、体力は低下する事を知しましょう。また、病気になる事とQOLについてを考える時間です。</p> <p><b>【到達目標】</b> 自分自身の体力を知り、健康に生きる為にどう生活していくかを考えて計画を立ててみましょう。自身のQOL向上を図るにはどうしたらよいかも考えましょう。</p>	

総合科目	健康スポーツ科学B	<p>【概要】 運動やスポーツは日常生活に必要であるということを理解し、運動を効果的に日常生活に取り入れることができるようなトレーニング方法やスポーツに関連する情報を得た上で、自分の生活を改善し運動習慣を取り入れるようになることを目的とする。</p> <p>【到達目標】 運動の必要性を理解し、運動習慣を身につけること。運動に関する正しい知識をもち、問題解決のための幅広い考えを持つことを目標とする。</p>	
総合科目	健康スポーツ①	<p>【概要】 生涯に渡って健康に生活し、多少の困難も無事に過ごすには、運動習慣を身につけ、体力増進を図っておくことが重要である。学生時代は規則正しい生活習慣が乱れやすい時期だが、新しい友人関係を築き、コミュニケーション能力を高めると同時に定期的な運動習慣を身につけ、体力を増強させることを授業を通して確立させることを目的とする。また、課題に対して積極的に取り組む態度や、道具の準備片付けなど、状況判断する態度を身につけることを目的とする。</p> <p>【到達目標】 様々なスポーツを通して、大学生としてのコミュニケーション能力の確立と、基礎技術の向上、ルール、戦術の理解などを目標とする。</p>	
総合科目	健康スポーツ②	<p>【概要】 生涯に渡って健康に生活し、多少の困難も無事に過ごすには、運動習慣を身につけ、体力増進を図っておくことが重要である。学生時代は規則正しい生活習慣が乱れやすい時期だが、新しい友人関係を築き、コミュニケーション能力を高めると同時に定期的な運動習慣を身につけ、体力を増強させることを授業を通して確立させることを目的とする。また、課題に対して積極的に取り組む態度や、道具の準備片付けなど、状況判断する態度を身につけることを目的とする。</p> <p>【到達目標】 様々なスポーツを通して、大学生としてのコミュニケーション能力の確立と、基礎技術の向上、ルール、戦術の理解などを目標とする。</p>	
総合科目	シーズンスポーツ①	<p>【概要】 シーズンスポーツ①は、夏の野外スポーツの中から、テニスとゴルフを行う。どちらも初心者から上級者まで参加可能である。ゴルフは、最終日に本コースを回る。★テニスもゴルフも、生涯スポーツとして、年齢に関係なく楽しめる。授業では、個人の実力に合わせて、上達を図る。</p> <p>【到達目標】 テニスでは、ラリー・試合まで、楽しめるようにする。ゴルフは、最終日に本コースを回るので、マナーも含めて学習する。</p>	
総合科目	シーズンスポーツ②	<p>【概要】 シーズンスポーツ②では、冬のスポーツスキーを行う。日本のスキー発祥の地で、プロのインストラクターに教えてもらい、テストを受けてメダルを目指す。冬山の厳しい自然に向き合いながら、スキーの上達を目指す。SAJ テストを受けて、実力を測る。</p> <p>【到達目標】 個人の上達をSAJ のテストにより評価する。</p>	
自由選択科目	日本文学講読①A	<p>【概要】 『古事記』の世界を丁寧に読み進めることを目標にする。昨年度取り上げ残した上巻の「天孫の降臨」以降の物語から継続し、中間の世界をながめていくことにする。そこに記された物語を読み進めることで、古代人の想像力、そしてそれを支える古代人の世界像のありように迫ってみたいと考えている。それを知ることで、現代の私たちを支える世界像が唯一絶対なものではないことを学んでいきたいと思う。</p> <p>【到達目標】 『古事記』の上巻～中巻の世界を知ること、そこに示された古代人の想像力、そしてそれを支える世界像のありようを、受講者それぞれが深く知るようになることが到達の目標となる。</p>	

自由選択科目	日本文学講読①B	<p><b>【概要】</b> 『古事記』の世界を丁寧に読み進めることを目標にする。昨年度取り上げ残した上巻の「天孫の降臨」以降の物語から継続し、中間の世界をながめていくことにする。そこに記された物語を読み進めることで、古代人の想像力、そしてそれを支える古代人の世界像のありように迫ってみたいと考えている。それを知ること、現代の私たちを支える世界像が唯一絶対なものではないことを学んでいきたいと思う。</p> <p><b>【到達目標】</b> 『古事記』の中巻～下巻の世界を知ること、そこに示された古代人の想像力、そしてそれを支える世界像のありようを、受講者それぞれが深く知るようになることが到達の目標となる。</p>
自由選択科目	日本文学講読④A	<p><b>【概要】</b> 第3番目の勅撰集「拾遺和歌集」は、藤原氏全盛期における優美な時代の勅撰集で、柿本人麿など万葉歌人の古歌から、古今集歌人・後撰集撰者の屏風歌など、晴れの歌から、前の勅撰集後撰集の時代的な特徴である歌語りなど、さまざまな要素を持つ。そのような特徴を考えながら読み進める。</p> <p><b>【到達目標】</b> 一首一首丹念に読むことで、三代集時代の和歌の解釈力がつくことを目標とする。</p>
自由選択科目	日本文学講読④B	<p><b>【概要】</b> 第3番目の勅撰集「拾遺和歌集」は、藤原氏全盛期における優美な時代の勅撰集で、柿本人麿など万葉歌人の古歌から、古今集歌人・後撰集撰者の屏風歌など、晴れの歌から、前の勅撰集後撰集の時代的な特徴である歌語りなど、さまざまな要素を持つ。そのような特徴を考えながら読み進める。</p> <p><b>【到達目標】</b> 一首一首丹念に読むことで、三代集時代の和歌の解釈力がつくことを目標とする。</p>
自由選択科目	日本文学講読⑤A	<p><b>【概要】</b> 『西行物語』を読みます。平安末期の歌人西行（1118—1190）の一生を記した『西行物語』を扱い、その内容を追究します。まず、中世を生きた西行の生涯や、西行に関わる他の作品を解説し、中世という時代の思想、歴史的背景を捉えます。次いで『西行物語』の成立や諸本を概観しながら、物語中に見られる西行和歌と、『山家集』『西行上人集』などの家集との比較や、数々の逸話と史実との相互関係を分析します。『西行物語』の豊かな作品世界を理解し、現代にもつながる伝承としての西行像に迫ります。</p> <p><b>【到達目標】</b> （1）語釈や解釈の方法を理解し、問題点を提起できる。 （2）『西行物語』の表現方法や構造を分析し、的確に説明できる。 （3）『西行物語』の特徴を捉え、日本文化との関わりから考察できる。</p>
自由選択科目	日本文学講読⑤B	<p><b>【概要】</b> 『西行物語』を読みます。平安末期の歌人西行（1118—1190）の一生を記した『西行物語』を扱い、その内容を追究します。まず、中世を生きた西行の生涯や、西行に関わる他の作品を解説し、中世という時代の思想、歴史的背景を捉えます。次いで『西行物語』の成立や諸本を概観しながら、物語中に見られる西行和歌と、『山家集』『西行上人集』などの家集との比較や、数々の逸話と史実との相互関係を分析します。『西行物語』の豊かな作品世界を理解し、現代にもつながる伝承としての西行像に迫ります。</p> <p><b>【到達目標】</b> （1）語釈や解釈の方法を理解し、問題点を提起できる。 （2）『西行物語』の表現方法や構造を分析し、的確に説明できる。 （3）『西行物語』の特徴を捉え、日本文化との関わりから考察できる。</p>

自由選択科目	日本文学講読⑦A	<p>【概要】 数多くの著作を残した十返舎一九の作品の中でも、もっとも有名な『東海道中膝栗毛』を読みます。内容は、東海道を旅するヤジさん、喜多さんのおこす事件が、おもしろ、おかしく描かれています。二十一年という長期にわたって刊行され、膝栗毛物といったジャンルを形成するほど影響を与えました。江戸時代の庶民が何をおもしろいと考えたか、そのうち何が現代まで引き継がれるおもしろさなのかを読み取る。</p> <p>【到達目標】 近世後期の庶民が、何を雅と思い、何を俗と思ったかについて知識を身につけ、現代に引き継がれたもの、引き継がれなかったものを理解することによって、何が日本的なものなのかを説明できる能力を身につける。</p>	
自由選択科目	日本文学講読⑦B	<p>【概要】 数多くの著作を残した十返舎一九の作品の中でも、もっとも有名な『東海道中膝栗毛』を読みます。内容は、東海道を旅するヤジさん、喜多さんのおこす事件が、おもしろ、おかしく描かれています。二十一年という長期にわたって刊行され、膝栗毛物といったジャンルを形成するほど影響を与えました。江戸時代の庶民が何をおもしろいと考えたか、そのうち何が現代まで引き継がれるおもしろさなのかを読み取る。</p> <p>【到達目標】 近世後期の庶民が、何を雅と思い、何を俗と思ったかについて知識を身につけ、現代に引き継がれたもの、引き継がれなかったものを理解することによって、何が日本的なものなのかを説明できる能力を身につける。</p>	
自由選択科目	日本文学講読⑨A	<p>【概要】 日本の植民地支配から生まれた日本語文学について学ぶ。戦中に植民地で書かれた小説や植民地出身者によって書かれた小説、更には戦後に植民地出身者やその子孫によって書かれた小説や詩までを取り上げる。時代を追って講義を進めるが、取り上げる作品の多くは戦後の在日朝鮮人文学である。恐らく学生諸君には全く馴染みのない作家、作品ばかりを取り上げる事になる。</p> <p>【到達目標】 植民地支配の歴史は、社会的に忘却されているが、日本文学史においても植民地の問題は忘れられている。そのマイナーな領域を学ぶ事は、現在の東アジアを生きる私たちにとって欠けたピースを埋める作業となる。</p>	
自由選択科目	日本文学講読⑨B	<p>【概要】 日本の植民地支配から生まれた日本語文学について学ぶ。戦中に植民地で書かれた小説や植民地出身者によって書かれた小説、更には戦後に植民地出身者やその子孫によって書かれた小説や詩までを取り上げる。時代を追って講義を進めるが、取り上げる作品の多くは戦後の在日朝鮮人文学である。恐らく学生諸君には全く馴染みのない作家、作品ばかりを取り上げる事になる。</p> <p>【到達目標】 植民地支配の歴史は、社会的に忘却されているが、日本文学史においても植民地の問題は忘れられている。そのマイナーな領域を学ぶ事は、現在の東アジアを生きる私たちにとって欠けたピースを埋める作業となる。</p>	
自由選択科目	日本文学講読⑩A	<p>【概要】 日本の近代詩および現代詩の歴史的な流れを総合的に理解し、各時代の代表的詩人の作品の表現の特色を把握する。また、各時期における作品相互の影響関係についての知識を獲得してゆく。</p> <p>【到達目標】 日本の近代詩から現代詩に至る流れを自分の観点から概括して語ることが出来るとともに、それぞれの時代の代表的作品について適切に解説することが出来る。</p>	
自由選択科目	日本文学講読⑩B	<p>【概要】 日本の近代詩および現代詩の歴史的な流れを総合的に理解し、各時代の代表的詩人の作品の表現の特色を把握する。また、各時期における作品相互の影響関係についての知識を獲得してゆく。</p> <p>【到達目標】 日本の近代詩から現代詩に至る流れを自分の観点から概括して語ることが出来るとともに、それぞれの時代の代表的作品について適切に解説することが出来る。</p>	

自由選択科目	日本文学講読①A	<p>【概要】 三島由紀夫と大江健三郎の作品を講読していく。戦後文学を代表する作家である二人の作品の主要作品を二つずつ読み、そこに込められた主題性を追うとともに、両者を特徴付けている表現の特質を探っていく。一見「右」と「左」に対照化されがちな両者だが、ほぼ同じ戦後社会を批判意識をもって生き抜いた共通性があり、それがなぜ政治的な対比性をもって捉えられることになったのかという問題を探究していく。</p> <p>【到達目標】 三島と大江という二人の作家の表現営為の特質を理解し、その根底にある、戦後社会に向けられた批判的精神を姿を捉える。</p>	
自由選択科目	日本文学講読①B	<p>【概要】 三島由紀夫と大江健三郎の作品を講読していく。戦後文学を代表する作家である二人の作品の主要作品を二つずつ読み、そこに込められた主題性を追うとともに、両者を特徴付けている表現の特質を探っていく。一見「右」と「左」に対照化されがちな両者だが、ほぼ同じ戦後社会を批判意識をもって生き抜いた共通性があり、それがなぜ政治的な対比性をもって捉えられることになったのかという問題を探究していく。</p> <p>【到達目標】 三島と大江という二人の作家の表現営為の特質を理解し、その根底にある、戦後社会に向けられた批判的精神を姿を捉える。</p>	
自由選択科目	比較文化講義A	<p>【概要】 日本人と花とのかかわりは深い。その点について『古事記』『万葉集』から現代文学に至るまで日本文学における花の表象をたどりながら、考察していく。</p> <p>【到達目標】 日本文学、日本文化における花の重要性を理解する。</p>	
自由選択科目	比較文化講義B	<p>【概要】 古来より花は洋の東西を問わず、様々な文学作品・芸術作品に表わされてきた。そうした花が一体何を表しているのかを、比較文化的視点から探求していく。</p> <p>【到達目標】 花の表象について、文化により相違があること、また普遍性もあることを理解する。</p>	
ゼミナール	ゼミナールⅠ	<p>【概要】 文学、歴史学などの文献を渉猟したうえで、現代の都市文化を読み解き、かつそれをデザインする人材を育成するために、アクティブラーニングやPBLにもとづくゼミナール運営をおこなう。</p> <p>【到達目標】 アクティブラーニングやPBLにもとづく実践的な活動をつうじて、現代の都市文化を理解しデザインするための人材を育成することにある。</p>	
ゼミナール	ゼミナールⅡ	<p>【概要】 文学、歴史学などの学問的言説に立脚したうえで、現代の都市文化について卒業研究を進めるための知識やスキルを習得する。</p> <p>【到達目標】 現代の都市文化を読み解き、その成果をもとに卒業論文を執筆するための各種能力の習得にある。</p>	
卒業研究	卒業研究	<p>【概要】 各ゼミナールの指導教員の指示にしたがって卒業論文を執筆し、指導教員の審査を受けることになる。あるいは指導教員の方針によっては、卒業論文の代わりに卒業制作によって審査がなされる場合もある。</p> <p>【到達目標】 論文の執筆もしくは作品の制作を計画的に遂行し、それを完成させることによって、大学での学習成果を集大成することにある。</p>	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校に於ける学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

